

令和5年度 しまくとぅば実践教育プログラム事業 事業報告書 目次

目次

しまくとぅば実践教育プログラム開発事業 事業報告書

1	はじめに 一発刊にあたって	1
2	実施概要	2
3	実践教育プログラムについて	4
	3-1・3-2 琉球舞踊実技Ⅰ（比嘉いずみ）	4
	3-3 舞踊創作演習Ⅰ（比嘉いずみ）	8
	3-4 組踊実技Ⅳ（嘉数道彦）	11
	3-5 琉球舞踊組踊研究Ⅰ（嘉数道彦）	12
	3-6 琉球舞踊実技Ⅵ（嘉数道彦）	13
	3-7 地謡実技Ⅲ（新垣俊道）	14
	3-8 学生による授業評価アンケート	17
	3-8-1 学生アンケート結果（R5・前期）	17
	3-8-2 学生アンケート結果（R5・後期）	21
	3-9 しまくとぅば関連授業の取り組み	25
	3-9-1 詞章研究（鈴木）	25
4	「聖田京子講演会 しまくとぅばを次世代につなぐ ～ハワイ・沖縄の事例を通して～」	26
	4-1 講演会概要	26
	4-2 「聖田京子講演会」アンケート結果	29
5	「誇らしゃ しまくとぅば」講演会概要	40
	5-1 第13回座談会「金武良章を語る」概要	40
	5-2 ワークショップ:組踊「花売りの縁」・舞踊「かせかけ」「上り口説」概要	42
	5-3 座談会・ワークショップアンケート結果	42
6	次年度への展望	48
7	小中学生新聞 りゅうPON 連載記事・ていーち! Teach!! しまくとぅば	49
8	令和5年度しまくとぅば実践授業録画日一覧	61

しまくとぅば実践教育プログラム開発事業報告書

1 はじめに — 発刊にあたって —

「沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育プログラム開発事業」は、平成28年度より行われた「ハワイ大学等交流事業」の中の「しまくとぅばプロジェクト」で発足し、平成29年度には「ハワイ大学等交流事業 しまくとぅば実践教育プログラム開発事業」と名称を変え、平成30年度から「ハワイ大学等交流事業」という名称を外して現名称で活動を行ってきた。内容はこれまでと変わらず、しまくとぅば実践教育とその方法、教材研究、そして普及活動という事業内容である。令和2年度から昨年度にかけては新型コロナウイルスのパンデミックがあり、本事業も大きな影響を受けた。なかでも、本事業の「誇らしや しまくとぅば」講演会が有観客で開催できなかったこと、さらに県外・海外への研修に対して規制があったこと（感染拡大防止の観点から、本学に外部からの入校を控えたり、本学教員の県外・海外渡航を控えたりした）である。これによって、大きく計画変更をせざるを得なかった。しかし、令和5年5月8日から新型コロナウイルスがこれまでの2類相当の感染症から5類相当の感染症へと移行したことから、本学の教育活動も緩やかではあるもののコロナ以前へと移行し、以前のようなイベント開催も行えるようになったのである。

したがって今年度の沖縄県立芸術大学では前・後期の講義について、これまでどおり感染拡大状況を鑑みながら対面講義を行うことができた。しかし、すぐにコロナ以前に戻すのではなく、慎重に配慮しながら行うという方針であった。実践講義は本年度も昨年度に引き続き「舞踊創作演習」に中曽根律子先生、久米ひさ子先生を特別講義として、「音楽家の恋」をご指導いただいた。講義については「3. 実践教育プログラムについて」を参照していただきたい。

そして今年度はこれまで、新型コロナウイルスの流行からお招き出来なかった仲宗根良江氏をハワイから招聘して「誇らしやしまくとぅば講演会」を行うこととした。内容としては知念積有氏の首里系の組踊、そして仲宗根良江氏による舞踊のワークショップと、「金武良章を語る」という座談会とした。感染拡大防止の措置を執りながら、少人数であるがワークショップ、座談会について有観客で行い、録画をして動画配信サイト（YouTube）を用いたネット配信を行った。本事業についての詳細は「4. 『誇らしや しまくとぅば』講演会」を参照していただきたい。

そして昨年度から引き続き、しまくとぅばの魅力を県内外に伝えるために、琉球新報社の小中学生向け新聞「りゅうPON!」へ4月から毎月1回、「ていーち！ Teach!! しまくとぅば」と題して身近にあるしまくとぅばや本事業に関わる内容を分かりやすく紹介した。連載記事は本書p49～を参照していただきたい。

上記の事業を行った今年度の研究会のメンバーは以下の通りである。

鈴木 耕太（芸術文化研究所：事業代表者）

高良 則子（全学教育センター）

比嘉いずみ（音楽学部琉球芸能専攻）

阿嘉 修（音楽学部琉球芸能専攻）

嘉数 道彦（音楽学部琉球芸能専攻）

新垣 俊道（音楽学部琉球芸能専攻）

西岡 敏（沖縄国際大学教授、沖縄県立芸術大学芸術文化研究所共同研究員）

仲原 穰（県立芸大非常勤講師、沖縄県立芸術大学芸術文化研究所共同研究員）

相談役：波照間永吉（沖縄県立芸術大学名誉教授）

令和5年度、研究会は基本的にリモート開催とした。研究会は毎月1回の合計10回（8月と1月は休会）開催した。

令和5年度の「沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育プログラム開発事業」の事業計画は以下の通りであった。

1. しまくとぅば実践教育プログラム開発研究会（毎月1回開催）。[担当：全員]
2. 前期4科目・後期4科目の実践教育を行う。[授業実施担当：比嘉・阿嘉・新垣・嘉数]
3. 「琉球語Ⅰ」ヘゲストスピーカーを招き、「実践教育プログラム」との連携を図る。[担当：仲原（後期開催）]
4. しまくとぅば講演会（第13回：9月）。[担当：全員]
5. 実践教育におけるしまくとぅばキーワードの蒐集（データの集積および編集）
6. 聖田京子先生講演会（5月）。[担当：鈴木・比嘉]
7. 「琉球舞踊実技」における副教材の研究開発（継続）。
8. 授業における教員—学生間の会話事例集の作成および刊行（継続）。

本事業は沖縄県立芸術大学琉球芸能専攻という教育現場に「しまくとぅば」を導入し、教育実践することで、琉球芸能を教授するときにおいて、「しまくとぅば」でしか表現出来ない独特の「わざ」や表現を学習させ、学生の表現力や作品理解力などを総合的に高めようというねらいから行われた事業である。本年度の事業成果については、各章に詳細を掲載した。次年度以降も実践教育プログラムの対象の講義やイベントを増やしていく計画である。本年度の結果を踏まえ、よりよい教育プログラムを作成し、琉球芸能および文化における「しまくとぅば」の用語を充実させていきたい。（文責：鈴木耕太）

2 実施概要

今年度は大学の規定で8月の会議は休会とし、さらに1月は研究会メンバー全員の都合が合わなかったため休会となった。合計で年10回の会議を行い、以下のように事業を実施した。

まず、令和4年度からの変更点は、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を行った上で、通常の対面形式での実施が可能となった点である。そして、イベントやワークショップの開催を本学で実施できる状況となった。これまでは本学関係者以外の入校が禁止されていたが、新型コロナウイルスが5月に5類へと移行したため、コロナ以前のように本学でのワークショップが開催できるようになったのである。

しまくとぅば実践教育の授業では、授業を担当する教員にそれぞれの授業を担当する「特別講師」を選定してもらい、研究会の承認を経て、「特別講師」の先生方へ事業内容を説明し、4月から前期、10月から後期、そして休暇期間（8月や年末・年度末）および集中講義期間（9月・12月・2月）の授業実践を担当する特別講師が決めて実施した。特別講師は「舞踊実技（比嘉）」が宮城幸子先生、「舞踊実技（嘉数）」は二代目宮城能造先生、「組踊実技」は金城清一先生となった。各特別講師の先生方のプロフィール等は、次の授業実践の報告に譲ることとする。

「しまくとぅば講演会」については、今年度から本学の有観客での公演が開催できることとなったため、公演・講話だけでなく、ワークショップを開催することが決定された。また、内容を録画し、動画配信サイト（YouTube）において配信することは前年度から引き続き行うこととした。さらに今回はハワイから金武良章の弟子である仲宗根良江氏を招聘することから、通常年2回行っている講演会を1回とし、講演会以外のワークショップを充実させることに決定した。第13回は令和5年9月26日に、国立劇場おきなわ大稽古室にて座談会「金武良章を語る」を開催し、9月27日～29日は、琉球舞踊と組踊のワークショップを沖縄県立芸術大学音楽棟にて開催した。

講義と講演会以外に、今回はハワイ大学名誉教授の聖田京子先生による講話を5月7日に沖縄県立芸術大学奏楽堂にて開催した。本イベントは沖縄ハワイ協会との共催で、講話の中で本事業の紹介や、来場者との意見交換などを行い、とても有意義な会となった。

今年度の実施事項の詳細は以下の通りである。以下に時系列で示した。

令和5年

4月12日	授業録画（舞踊創作演習Ⅰ：比嘉）
4月19日	授業録画（舞踊創作演習Ⅰ：比嘉）
4月24日	授業録画（舞踊実技Ⅰ：比嘉）
4月24日	第1回県芸しまくとぅば実践教育研究会
4月26日	授業録画（舞踊創作演習Ⅰ：比嘉）
5月10日	授業録画（舞踊創作演習Ⅰ：比嘉）
5月17日	授業録画（舞踊創作演習Ⅰ：比嘉）
5月22日	授業録画（舞踊実技Ⅰ：比嘉）
5月24日	授業録画（舞踊創作演習Ⅰ：比嘉）
5月26日	第2回県芸しまくとぅば実践教育研究会
5月31日	授業録画（舞踊創作演習Ⅰ：比嘉）
6月5日	授業録画（舞踊実技Ⅰ：比嘉）
6月7日	授業録画（舞踊創作演習Ⅰ：比嘉）
6月12日	授業録画（舞踊実技Ⅰ：比嘉）
6月12日	第3回県芸しまくとぅば実践教育研究会
6月14日	授業録画（舞踊創作演習Ⅰ：比嘉）
6月26日	授業録画（舞踊実技Ⅰ：比嘉）
6月28日	授業録画（舞踊創作演習Ⅰ：比嘉）
6月28日	授業録画（地謡実技Ⅲ：新垣）
7月3日	授業録画（舞踊実技Ⅰ：比嘉）
7月5日	授業録画（地謡実技Ⅲ：新垣）
7月5日	授業録画（舞踊創作演習Ⅰ：比嘉）
7月5日	授業録画（地謡実技Ⅲ：新垣）
7月12日	授業録画（舞踊創作演習Ⅰ：比嘉）
7月13日	授業収録（舞踊創作演習Ⅰ：比嘉）
7月17日	授業録画（舞踊実技Ⅰ：比嘉）
7月19日	授業録画（舞踊創作演習Ⅰ：比嘉）
7月19日	授業録画（地謡実技Ⅲ：新垣）
7月20日	授業録画（舞踊創作演習Ⅰ：比嘉）
7月24日	授業録画（舞踊実技Ⅰ：比嘉）
7月25日	第4回県芸しまくとぅば実践教育研究会
7月26日	授業録画（舞踊創作演習Ⅰ：比嘉）
7月26日	授業録画（地謡実技Ⅲ：新垣）
9月6日	第5回県芸しまくとぅば実践教育研究会
10月26日	第6回県芸しまくとぅば実践教育研究会
10月2日	授業録画（舞踊実技Ⅳ：比嘉）
10月16日	授業録画（舞踊実技Ⅳ：比嘉）
11月6日	授業録画（舞踊実技Ⅳ：比嘉）
11月27日	授業録画（舞踊実技Ⅳ：比嘉）
11月29日	第7回県芸しまくとぅば実践教育研究会
12月11日	授業録画（舞踊実技Ⅳ：比嘉）
12月18日	授業録画（舞踊実技Ⅳ：比嘉）

12月21日 第8回県芸しまくとぅば実践教育研究会

令和6年

1月15日 授業録画（舞踊実技Ⅳ：比嘉）

1月15日 授業録画（舞踊実技Ⅵ：嘉数）

1月22日 授業録画（舞踊実技Ⅳ：比嘉）

1月22日 授業録画（舞踊実技Ⅵ：嘉数）

1月31日 授業録画（組踊実技Ⅳ：嘉数）

2月8日 第9回県芸しまくとぅば実践教育研究会

2月9日 授業録画（琉球舞踊組踊研究Ⅰ：嘉数）

2月16日 授業録画（琉球舞踊組踊研究Ⅰ：嘉数）

3月21日 第10回県芸しまくとぅば実践教育研究会

3 実践教育プログラムについて

3-1・3-2 舞踊実技(比嘉いずみ)

実践授業1・2：琉球舞踊実技Ⅳ

授業期間 前期：(琉球舞踊実技Ⅰ) 令和5年4月24日～令和5年7月24日

後期：(琉球舞踊実技Ⅳ) 令和5年10月2日～令和6年1月22日

授業回数 前期：8回 後期：8回

対象学年及び受講人数 前期：学部1年次3人 後期：学部2年次3人

特別講師について

宮城幸子（みやぎ ゆきこ）90歳／「真踊流佳幸の会 会主」

昭和26年に琉球舞踊真踊流家元の真境名佳子師に入門され（芸歴72年）、昭和43年に宮城幸子琉舞道場を開設し、昭和58年に沖縄タイムス芸術選賞大賞を受賞。平成8年、沖縄県指定無形文化財「沖縄伝統舞踊」技能保持者に認定され、平成21年には国指定重要無形文化財「琉球舞踊」（総合認定）保持者に認定、令和元年に沖縄県功労者として表彰された実績を有している。真境名佳子師からはしまくとぅばでの舞踊指導を受けており、当時の指導法を体得し、伝授できる重鎮な舞踊家の一人である。

令和3年に琉球舞踊立方として初めて国指定重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定。

しまくとぅばキーワード

キーワード	意味・動作など
チブルヌマチジカラ チビヌミーマディ ティーチ	頭の天辺からお尻まで一つ（体の中に軸を立てる）
ドゥーテューサーニ ウビーリヨー	体で覚えなさい（体得する）
イチ ニュジュシトゥ マジュン シチャワタン カイ ネーチリ イリレー	息を抜くと同時に、下腹にあげを入れなさい
ヤファッテングワァー ヒサ ンジャセー	柔らかく足を出しなさい
クシイシヤーニ ウッチャカレー	腰を据えて寄りかかりなさい
ウヌマーマー ウッチャカレー	そのまま寄りかかるだけ
サンシンヌ チル フミヨー	三線の弦を踏みなさい
マルヌベー サングトゥ クシ ミグラセー	全部は伸びず、腰を回しなさい
ネーチリ イリレー	あげを入れなさい
ハニーネー ヤファッテングァー	跳ねる時には柔らかく

キーワード	意味・動作など
ヤファッテングワー ヒサ ンジャセー	柔らかく足を出しなさい
クシイシレー	腰を据えなさい
サンシンヌ チル フミヨー	三線の弦を踏む（ように歩く）
クシ ミグラサーニ ウッチャカイル ウッピ	腰を回したら、寄りかかるだけ
ハニーネー ヤファッテングワー	跳ねる時は、柔らかく
ユイン チキヨー	余韻も聞きなさい
ドゥーテーサーニ ウビーリヨー	身体で体得しなさい
シナヌ ナーカンカイ ヒサ イッティ シナ トウバサングトゥ ヒサ ンジャセー	砂の中に足を入れて、砂を飛ばさないよう足を出しなさい
ネーチリイリレー	あげを入れなさい＝腰を入れる
メーンカイ ウッチャカレー	前に寄りかかりなさい
ドゥーテイサーニ ウビーリヨー	身体で体得しなさい
ヤファッテングアー ヒサ ンジャセー	柔らかく足を出しなさい
マルヌベー サングトゥ ウッチャカイル ウッピ	全部は伸ばさず、前に寄りかかるだけ
イチ ヌジュシトマジユン シチャワタンカイ ネーチリイリレー	息を抜くのと同時に、下腹に上げを入れなさい
サンシンヌ チル フミヨー	三線の弦を踏みなさい
ドゥーテーシ ヒサ ヒッパッティ イチュン	胴体で足を引っ張っていく
ヤファッテングアー ヒサ ンジャセー	柔らかく足を出しなさい
ウッチャカレー	寄りかかりなさい
ハニーネー ヤファッテングアー	跳ねる時は柔らかく
ヤファッテングアー ヒサ ンジャセー	柔らかく足を出しなさい
イチ ヌジュシトマジユン シチャワタンカイ ネーチリイリレー	息を抜くのと同時に、下腹に上げを入れなさい
ハニーネー ヤファッテングアー	跳ねる時は柔らかく
クシ ミグラサーニ ウッチャカイル ウッピ	腰を回したら寄りかかるだけ
クシ ミグラサーニ ウッチャカイル ウッピ	腰を回したら寄りかかるだけ
ハニーネー ヤファッテングアー	跳ねる時は柔らかく
ユイン チキヨー	（音楽の）余韻も聞きなさい
チブルヌ マチジカラ チビヌミー マディ テ イーチ	頭の頂点からお尻の穴まで一つ（芯を立てる）
チラン ヤファッテングアー	顔の表情も柔らかく
ミー ワレー グアー	目が笑っている
ミー ジチ	目の表情
ヒッタティー シガ ネーラン	引き上げるのが無い
ドゥーテーサーニ ウビーリヨー	体得しなさい
チブルヌ マチジカラ チビヌミー マディ テ イーチ	頭の頂点からお尻の穴まで一つ（芯を立てる）
ネーチリイリレー アギイリレー	腰を入れる
メーンカイ ウッチャカレー	前に寄りかかる
ドゥーテーサーニ ウビーリヨー	体得しなさい
ヤファッテングアー ヒサ ンジャセー	柔らかく足を出しなさい
ウッチャカイル ウッピ	前に寄りかかるだけ

キーワード	意味・動作など
イチ ヌジュシトゥ マジュン シチャ ワタン カイ ネーチリイリレー	息を抜くのと同時に、下腹に上げを入れなさい
ドゥーテーサーニ ウビーリヨー	体得しなさい
クシ ミグラサーニ ウッチャカイル ウッピ	腰を回したら、前に寄りかかるだけ
メーンカイ ウッチャカレ	前に寄りかかりなさい
イチ ヌジュシトゥ マジュン シチャ ワタン カイ ネーチリイリレー	息を抜くのと同時に、下腹に上げを入れなさい
ヤファッテングァー ヒサ ンジャセー	柔らかく足を出しなさい
イチ ヌジュシトゥ マジュン シチャ ワタン カイ ネーチリイリレー	息を抜くのと同時に、下腹に上げを入れなさい
クシ ミグラサーニ ウッチャカイル ウッピ	腰を回したら、前に寄りかかるだけ
ヤファッテングァー ヒサ ンジャセー	柔らかく足を出しなさい
クシ イシヤーニ マルヌベーサングトゥ ヒサ ンジャセー	腰を据えて、全部伸びてしまわないで、歩き出す
チブルヌ マチジカラ チビヌミーマディ ティ ーチ	頭の頂上からお尻の穴まで一つに結ぶ
ウッチャカイル ウッピ	前に寄りかかるだけ
ドゥーテーサーニ ヒサ ヒッパッティ イチュン	胴体で足を引っ張っていく
クシ ユルミヤーニ ウッチャカイル ウッピ	腰を緩めて、前に寄りかかるだけ
ネーチリイリレー	あげを入れなさい＝腰を入れる
サンシンヌ チルフムヨー	三線の弦を踏むように歩きなさい
ヤファッテングァー ヒサ ンジャセー	柔らかく足を出しなさい
クシ ミグラサーニ ウッチャカイル ウッピ	腰を回したら、前に寄りかかるだけ
ドーチューシ ウッチャカレ	身体全体で寄りかかりなさい
クシ イシヤーニ ヌジュル ウッピ	腰を据えて、そのまま抜くだけ
チブルヌ マチジカラ チビヌミーマディ ティ ーチ	頭の頂点からお尻の穴まで一つの芯を通す
シチャワタンカイ ネーチリイリレー	下腹にあげをいれなさい
ヤファッテングァー ヒサ ンジャセー	柔らかく足を出しなさい
メーホーヤ ナラングトゥ ウッチャカイル ウ ッピ	前傾し過ぎず、前に寄りかかるだけ
ドゥーテイサーニ ヒサ ヒッパッティ イチュン	胴体で足を引っ張っていく
シチャワタンカイ ネーチリイリレー	下腹にあげをいれなさい
ウッチャカレ	前に寄りかかりなさい
チュビヨーシ ヌジュン	一拍子、抜く
クシ イシレー	腰を据えなさい

学生の反応・印象に残った言葉など

【前期】

- ①今回受講する学生は1年次3名で、第1回目の授業では少し緊張気味であった。
姿勢・歩み・回転の3つの基本を意識しながら歩みを重点的に繰り返し行い、宮城幸子先生に細かく一人一人ご指導いただいた
- ②姿勢は、背中に力が入っているのが目立つ。歩みでは、つま先の羽が大きく、足先が交差している。反り腰や、膝の曲げすぎも見受けられる。
- ③回を重ねるごとに、背中の緊張が抜けてきており、姿勢がよくなった。
- ④基本（姿勢・歩み・回転）の反復練習により、徐々に安定感が伺える。目の表情も合わせて練習する必要がある。
- ⑤男女の踊りを通して、基本は大きく変わらないので、これまでの練習を継続しながら、安定した根幹を目指し、柔軟な表現力を身につけるよう指導する。
- ⑥3名とも背中に力が入っているのが目立つ。力の抜き方・整え方を習得する必要がある
着付けを丁寧に行う
- ⑦全体的に歩みがとても良くなっている。宮城先生に教えていただいた基本(姿勢・歩み・回転)が整ってきつつある
- ⑧自分自身の映像を通して、変化と課題を確認でき、半年間の修練を実感できていた。
宮城先生に教えていただいた、しまくとうばによる基本動作の言葉とイメージを、理解することが出来た。実践を通して精進してほしい。

【後期】

- ①基本の修得（姿勢・歩み・回転）が、まだ十分ではないと感じる。身体や目線、表情に硬さがみられる。自然体を目指して修練を重ねていく必要がある
- ②「入り身」の身体の使い方が難しいとの質問があった。回答ができる身体のイメージや息の使い方など、伝え方を工夫していく必要を感じた
- ③姿勢・歩み・回転の基本が、整いつつある。回転の時、ガマクと比例して面が入るよう、修練が必要である
- ④歩みはだいぶ良くなってきている。腰の落とし方と姿勢に課題がある
- ⑤歩み、姿勢、回転が全体的によくなった。
- ⑥元旦に首里城公園にて「稲まづん」を2名で踊る機会を得たことで、授業以外での練習量が増え、だいぶ進歩がみられる
- ⑦曲の取り方もだいぶ良く、基礎力が増してきた。
- ⑧3名の学生(2年次)は、1年次の前期に続き、2回目しまくとうば実践授業であったが、身体で体得することの意味(ドゥーティサーニ、ウビーリヨー)や、基本の大切さを実感できたとの感想があった。毎回の授業を見学している宮城りつ子先生からは、「呼吸が整ってきたのが、感じられた」との感想があり、根幹の安定が呼吸で感じられたことは、とても良い結果であり、学生の基礎力の成長が伺えた。

今年度の授業について

前期受講した1年次(3名)は、しまくとうばに少し戸惑いもあったが、回を重ねるごとに基本動作(姿勢・歩み・回転)が美しく整い、舞踊表現の土台となる基礎力の向上が感じ取れた。後期受講した2年次(3名)は、昨年受講した経験があり、基本姿勢のしまくとうば表現も身につけており、全体的に所作がとても美しくなっている。

次年度への展望

本事業も7年目となり、しまくとぅばによる実技指導の成果と重要性が、学生を通して感じることができた。これらの貴重な「わざ言語」の保存と継承法などを研究会で検討し、今後の伝統芸能の普及と発展につなげていきたい。

3-3 舞踊創作演習 I (比嘉いずみ)

実践授業3：琉球舞踊創作演習 I

授業期間 前期：(琉球舞踊創作演習 I)令和5年4月12日～令和5年7月26日

授業回数 前期：16回

対象学年及び受講人数 前期：学部3年次6人

特別講師について

中曽根律子(82歳) / 「劇団うない 代表」

1941年本部町に生まれ、1964年(23歳)に乙姫劇団に入団。2002年の閉団までの38年間、県内をはじめ県外・海外で団員として活躍。2004年には、新たに「劇団うない」が旗揚げされ、2009年に同代表として「琉球歌劇」の若手育成を行いながら、公演活動を行っている。2011年に沖縄タイムス芸術選賞「演劇部門功労賞」を受賞し、2013年には沖縄県指定無形文化財「琉球歌劇保持者」に認定された。2016年より本学の非常勤講師として、舞踊創作演習 I の科目で「琉球歌劇」を指導。

久米ひさ子(63歳) / 「劇団うない 団員」

1960年沖縄市に生まれ、1975年(15歳)に乙姫劇団に入団。2002年の閉団までの27年間、団員として活躍された。その後2004年に旗揚げされた「劇団うない」では、演者のみならず企画制作全般を担い、琉球歌劇を通して沖縄の豊かな文化(肝心)を次世代に継承していきたいと、若手育成にも尽力されている。2021年より、中曽根律子氏の指導助手として、琉球語と「琉球歌劇」の演技を指導。

しまくとぅばキーワード

キーワード	意味・動作など
ダテン アビレー	大きな声ではなしなさい
シコーティ	準備して
ウサギリヨー	差上げる
グネージ	奥様
ミーヒッチューヒッチュー	目をパチクリ
ユーチ ムッチ	なたをを持って
ンダ ユディンダ	それでは読んでみよう
トチン ニッカナティ	時間も遅くなっている
マチウッチ	ひっくり返して
ワタドゥ クダミティン	お腹を踏みつけて
シグニ チューグトゥ	直ぐに来るので
クィーヤ ナーヒン マギーク	声はもっと大きく
カシー サビークトゥ	応援するので
コーサー クワースン	げんこつする
マルケーティ ヤラセー	たまには行かしなさい
マンガタミー	抱え込
ンナサーニ カシー サビークトゥ	みんなで応援するので

キーワード	意味・動作など
ウタヌ チーク シカラ	声の稽古をしてから
クトゥバ アビラネー ウビララン	言葉を発しないと覚えられない
ウウンガクヌ ミチ サトイルタミ	音楽の道を悟るため
メンソーラサントゥ ナイビランサーヤー	行かさないわけにはいきません
カテームン	かわいそう、きのどく
イナーナミ クィダミ	もう、そうなってしまったのか
スムカラン	そむけない
ウーフー	士族に対する言葉使いの総称
イーヒー	平民に対する言葉使いの総称
クトゥバヤ カンチリ カンチリ アビレー	言葉は一語一句話しなさい
ユーサンディー	もしかしたら
クサミカチ	怒らせて
マルケーティ	たまには
ヤクスドゥ カナミ	約束が肝心
イヌタキー	同じ位、同等
シセンヌ ウティトーン	視線が落ちている
エーティヌ チラ ンジャーニ ワザヤ スン ドー	相手の顔を見て、演技をするものだ
ユージュ	用事
ナーヒン ウムサン	もう少し面白い
エーティヌ ウタン ウビーティドゥ シバイヤ ナイン	相手の歌を覚えてからが芝居はできるものだ
イナグ タトゥクル クィーヌ グマサン	女性2名の声が小さい
サシティヌ ユージュヤ アラン	大した用事ではない
マジム ウチアキラ	本心を打ち明ける
カナギレー	まくり上げる
ナマチナ ムン	変わり者
カテー ムン	やっかい者
ナマチナ ムン	変わり者
クィーヌ タキハバ	声の幅＝声量
ナバクティ	からかって
ヤーシコー ネーラン	ひもじくない
チャー メーンカイ ンジティ クーフ	いつでも前に出てきなさい
ナバクティ	からかって
ミー ヒチュヒチュ	目をパチパチ
クィーン クーサン	声が小さい
ウーフー	敬う
ウマーシ ブイグァー	思わせぶり
フンデー	甘えん坊
チラブイ	そっぽむく
スラーシェー	揃えてあげる
ウンデー サリンドー	怒られる
ウミハマティ	一生懸命に
バチカンセー	罰があたる

キーワード	意味・動作など
シシミティ ヤラス	進めて行かせる
ユスジムヌ アティドゥ	他に気があるので
ドーディン ナラーチ ウタビミ セービリ	どうぞ教えてください
バチカンセー	罰があたる
ヒサ マディ モーユン	足まで踊る
イナーナ キュタミ	こんなに早く来たのか
スル テーフアード ミシエル	変は冗談を言って
ミミ グスイ	耳葉
ウタイガチ アッケー	歌いながら歩きなさい
ヨーンナー ヨーンナー	ゆっくりゆっくり
セリフヤ ウタ アビールグトウシ トゥネーリ ヨー	台詞は歌を歌うように唱えなさい
ンミュ ウスティ	目を盗んで
ミサバ	御草履
アック サリレー	怒られなさい
シーティ イキイキシ	わざわざ行けと促して
チンダミ	調弦
セリフヤ ウタ アビール グトウシ トゥネーリ ヨー	台詞は歌を歌うように唱えなさい

学生の反応・印象に残った言葉など

- ①初回の授業で、台本の読み合わせを行った。映像を通して台詞や舞踊、動きを自習してくるようにとの指導があった。今回は台詞の多い劇で、覚えるのに時間がかかると思うが、しまくとぅばを多く学習できる機会となる
- ②配役を終え、それぞれの役が決まり、モチベーションも上がってきた。この授業を通して、しまくとぅばに対する理解と使い方、芝居独特の動きの中で、表現力が身につくよう、取り組んでいきたい
- ③DVDから予習をしてきた様子が伺われ、台詞や歌の表現がよくなった。
- ④学生が楽しみながら歌劇を学んでいる姿が、とても良い
- ⑤わからない沖縄語を、積極的に質問していて、とてもよい。「琉球歌劇」や琉球語を楽しみながら学んでいる姿が伺える
- ⑥台本もおおよそ覚えてきており、演技に集中できるようになってきた。
- ⑦台詞の中で、アドリブも出てくるほど楽しんで演じている様子が伺える。久米ひさ子先生に台詞や所作のアドバイスを受け、それを持ち帰って学習している様子が伺える。
- ⑧歌や台詞もかなり感情が込められるようになり、演技力が出てきている
- ⑨それぞれの工夫があり、毎回の授業成果が上がりつつある。
- ⑩中曾根先生のアドバイスにより、それぞれの演技がかなりよくなってきた。
- ⑪一人一人が積極的に役作りを行い、成長の跡が伺えた。
- ⑫的確なアドバイスにより、一人一人の演技力が上がり、完成度が向上している。それぞれが楽しみつつ役作りをしている姿勢が伺え、積極的に考え学ぶ授業の雰囲気ができている
- ⑬中曾根先生に指導いただいた細かい修正部分も即座に対応し、学生の修得の速さに驚くほどである
- ⑭奏楽堂ホールでの収録前で、それぞれが役になりきって、ウチナーグチの台詞・歌・演技・演奏を実践しみんなが生き生きしている。

⑮前期15回の最終授業で、それぞれの演技力・表現力の修得の高さを感じた

⑯琉球歌劇の授業を通して、一人一人の様々な側面での成長が感じられ、改めて沖縄芝居を継承し続ける意義を、感じ取ることが出来た

今年度の授業について

今年度は受講生が6名おり、名作歌劇「音楽家の恋」を学習することになった。本作品は、劇中に三線や箏の生演奏が入るなど、難易度が高い作品ではあったが、学生たちの取り組む姿勢が意欲的で、配役された人物像をそれぞれがしっかりと捉え、授業で沖縄語の台詞と芝居表現を学び、成果発表を兼ねた舞台収録を完了でき、観客からも好評を得た。

次年度の取り組みについて(今年度からの反省点、今後の展望など)

次年度は、3名の学生が受講することが予想され、そして古典音楽コースの学生3名が聴講を希望している。そのため講師の先生方と相談の上、早めに演目を選定し、この授業を通してウチナーグチをはじめ、芝居における心情や所作の表現方法などを体得することで、琉球舞踊や組踊における表現の幅が、広げられるよう取り組んでいく。

3-4 組踊実技Ⅳ (嘉数道彦)

実践授業4：組踊実技Ⅳ

授業期間 後期：(組踊実技Ⅳ) 令和6年1月31日

授業回数 後期：1回

対象学年及び受講人数 後期：学部2年次3人、聴講生(3年次4名)

特別講師について

親泊興照(おやどまり こうしょう)

昭和36年に初代親泊興照に師事、昭和43年、真境名由康組踊会に入会し、組踊の荒事、女形芸を学んできた。昭和56年に、初代親泊興照氏より、親泊本流親扇会の二代目親泊久玄を襲名。昭和61年、国指定重要無形文化財「組踊」保持者、平成21年、国指定重要無形文化財「琉球舞踊」保持者。平成25年、二代目親泊興照を襲名。

しまくとぅばキーワード

キーワード	意味・動作など
クミウドゥイヤ ターガンスシガ ターガンナラン	組踊は誰でもやるが、誰にでも出来るものではない。
トゥネーヌ ナンドゥルーナトーン	唱えが、だらだらと平板(抑揚がない)になっている。
アジガヤラ ウフヌシガヤラ ワカラン	按司なのか、大主なのか、分からない。
クミグワー ティーチナー チチチュン	米粒をひとつずつ突く(若衆の唱えの発し方)
ジンジケー	吟使い
チャーアガイ	ずっと上がっている(声の高さ)

学生の反応・印象に残った言葉など

実際に若衆、男(あまおへ)の唱えを実演しながら説明するご指導に、学生は見入りながら、唱えを熱心に反復していた。細かさと厳しさ、また芸論等も含め、貴重な授業内容となった。

今年度の授業について

組踊の第一線で活躍してこられた二代目親泊興照氏を迎え、非常に細かく唱えのひとつひとつ、

発声法に至るまで実演を交えながら丁寧に指導していただいた。これまでの経験をもとに芸論を交えながら、組踊を演じる心得等も含めた熱心な指導は、学生にとってもなかなか経験することの出来ない貴重な時間で、興味深く真剣に取り組んでいた。

次年度の取組について(今年度からの反省点、今後の展望など)

組踊も琉球舞踊と同じく、それぞれの流派(主に真境名、玉城、親泊、宮城、金武など)によって演技の型・所作等が異なるため、特別講師を招いての授業展開に厳しさを感じる面がある。次年度においては、ひとつの舞台(定期公演、学内演奏会等)に向けた授業の位置づけで、指導者を依頼し講師を務めてもらうことを検討したい。

3-5 琉球舞踊組踊研究 I (担当教員名：嘉数道彦)

実践授業5：琉球舞踊組踊研究 I

授業期間 後期：(琉球舞踊組踊研究 I) 令和6年2月9日、2月16日

授業回数 後期：2回

対象学年及び受講人数 後期：学部大学院生 1年生 1人

授業内容 雑踊「むんじゅる」

特別講師の紹介

宮城能造(みやぎ のうぞう) 宮城流二代目家元

昭和28年に初代宮城能造に師事し、幼き頃から琉球舞踊はじめ組踊、沖縄芝居など数々の舞台で研鑽を積む。昭和45年に家元より名取(宮城能葵)を許名され、昭和48年に教師免許授与、後進の育成にもあたりつつ、県内外での舞台活動を積極的に行ってきた。平成13年に二代目宮城能造を襲名、平成30年、国指定重要無形文化財「琉球舞踊」保持者。

しまくとぅばキーワード

キーワード	意味・動作など
ミーヌタカサンカイ	目の高さに
ニジリンカイミグティ	右にまわって
アドゥグワーアギティ	かかとを上げて
ゲーサン	杖
ヒジャイヌヒサンジャチ	左足を出して
トゥータンヤーグワー、カヤブチャー、カーラヤー	トタン屋根の家、茅葺きの家、瓦屋根の家
ミーナリチチナリッシ、ナライン	自分で見て聞いて、まねて習う
メーンカイ	前に
トゥーヌーマーヌー サンヨーイ	どうしてよいか分からず、オロオロしないように
ドゥナークル クンチンジランネー	自分で(紐を)結んで出ないと駄目だよ
ヒサー ナガネーイサンヨーイ	足は長く出さないように(伸ばさないように)
ニジリヌティーサーニ	右手で
シーカンティーグワースンヤー	やりづらそうにしているね

学生の反応・印象に残った言葉

学生自身の流派の踊りと身体の使い方が異なるため、動きづらい点などは、その都度、先生に確認しながら手順を覚えていた。先生がふと口にするしまくとうばにも、興味を示し、その意味を自主的に尋ね理解に努めようとする姿が印象的であった。

前回の授業を終え、自身で復習を積極的に行い、先生から指導して頂いたことを身につけ、今回の授業に臨もうとする姿勢が印象的であった。踊りの所作と同じく、しまくとうば、沖縄の言葉の面においても、多くの学びがあったように感じられた。

今年度の授業について

本授業で取り上げた雑踊「むんじゅる」は、今回からスタートで、踊りの手順を一から先生にご指導していただいた。学生自身の流派の踊りと身体の使い方が異なるため、動きづらい点などは、その都度、先生に確認しながら手順を覚えていた。先生がふと口にするしまくとうばにも、興味を示し、その意味を自主的に尋ね理解に努めようとする姿が印象的であった。踊りの所作と同じく、しまくとうば、沖縄の言葉の面においても、多くの学びがあったように感じられた。

次年度の取組について(今年度からの反省点、今後の展望など)

今回は、踊りの手順を指導していただくことを中心とし、次年度の学内演奏会(または修士演奏)に取り上げる予定をしていることから、今後稽古を重ね、再び次年度に仕上がりを先生に見て頂き、細かい技法の指導を受けることができると考えている。

3-6 琉球舞踊(嘉数道彦)

実践授業6：舞踊実技VI

授業期間 後期：(舞踊実技VI)令和6年1月15日、1月22日

授業回数 後期：2回

対象学年及び受講人数 後期：学部3年次1人

授業内容 古典女踊「伊野波節」

特別講師の紹介

宮城能造(みやぎ のうぞう) 宮城流二代目家元

昭和28年に初代宮城能造に師事し、幼き頃から琉球舞踊はじめ組踊、沖縄芝居など数々の舞台で研鑽を積む。昭和45年に家元より名取(宮城能葵)を許名、昭和48年に教師免許授与、後進の育成にもあたりつつ、県内外での舞台活動を積極的に行ってきた。平成13年に二代目宮城能造を襲名、平成30年、国指定重要無形文化財「琉球舞踊」保持者。

しまくとうばキーワード

キーワード	意味・動作など
ドゥーミグラチ ヒサンジャスン	身体をまわして、足を出す
ティーヤサギラン ドゥードウウトゥスル	手を下げずに、身体を落とす
イーチューグワーヌ チリーンネー	糸が切れるように(手の使い)
チラー タカウチャガイサングトゥ	顔は顎を上げないように
ティー ムチャギティ	手を持ちあげて
クシ ウトゥチ	腰を落として
トゥーヌー マーヌー	戸惑いどうしていいか分からない様子
ミーヒチャラサン	まぶしい
〇〇ラーサンネー	〇〇らしく

キーワード	意味・動作など
ティガネーシーガチー	手伝いしながら
スーティーチャー	そてつ
ミーナリ チチナリッシ ウビーン	自分で見て聞いて、覚え学ぶこと
ドゥーイシティ	腰を据えて

学生の反応・印象に残った言葉

特別講師から直に指導を受けることで、はじめは緊張もみられたが、実演を交えながらの細かい指導を受けながら、徐々に笑顔がみられるようになった。後半では、徐々に質問をしながら積極的に指導を受けているのが印象的だった。

かつての舞台裏の話など、興味津々な様子で食い入るように話を聞いていた。舞踊の表現法はもちろん、通常聞くことのできない先達の思い出話も、学生にとって有意義なものであったのではと感じた。

今年度の授業について

宮城流ならではの身体技法、こなし等を細かくご指導いただいた。特に今回の演目「伊野波節」は、初代・二代目ともに十八番芸として大切に踊られているだけに、指導法にも独特の表現がみられた。「イーチューグワーマ チリーンネー」(糸が切れるように)という表現は、「恨めても」の手で、顎宛てに持っていくまでの手の技法(糸に繋がっている手首が引っ張られるように柔らかく手を持ち上げ、糸が切れると同時に力が抜け、手首が落ち、顎宛てとなる)を表したしまくとぅば言語で独特であった。

それと同時に、初代能造の芸風にも触れながら、先達の舞踊家の先生方との思い出や当時の舞台公演の様子などの話など、通常聞くことのできない内容で、学生興味津々に聞き入っていた。

次年度の取組について(今年度からの反省点、今後の展望など)

昨年度に続き、特別講師として招聘している宮城能造先生も、授業の雰囲気をつかみつつ、学生と楽しげに接しているのが印象的であった。次年度も継続し、引き続き、しまくとぅばによる技言語を引き出していけるよう努めていきたい。

3-7 地謡実技Ⅲ(新垣俊道)

実践授業7：地謡実技Ⅲ

授業期間 前期：(地謡実技Ⅲ)令和5年6月28日～7月26日

授業回数 前期：4回

対象学年及び受講人数 前期：学部2年次2人

特別講師について

【地謡実技Ⅲ】

銘苅盛隆(めかる もりたか)

琉球古典音楽野村流音楽協会師範

沖縄県指定無形文化財「沖縄伝統音楽野村流」保持者

国指定重要無形文化財「組踊」保持者

国指定重要無形文化財「琉球舞踊」保持者

しまくとぅばキーワード

キーワード	意味・動作など
ハジミティ ヤイビーシガ ミーシッチョーティ ウタビミ シュービリ	初めてですが、宜しくお願いいたします。
ジウテーヌ クーチーグァー	地謡の呼吸
アーケーズー	蜻蛉
ネーイ	ネーイ 唱法
ナナラウドゥイ ラウドゥラス トゥチネー サ ンシンヌン ヤファヤファトゥグァー ヒチ ウ タン ウタリヨー ンディイチ ワッターヤ ン カシカラ シンシターカラ ナラーサッティ チ ヨークトゥ	七踊りを踊らす時は、三線も柔らかく弾いて 歌も歌いなさいと言って、私達は昔から教え られてきているから。
ナサキ ラウドゥイ	情けのある思いのある踊り
ウタン ガーアビーシーネー ウタン アラアビ ーシ サンシンヌン アラビチーシーネー ナラ ンクトゥ ヤファッテングァー サンシン ヒチ ユル	歌もがなるように大きく歌うと、歌も荒く歌 って、三線も荒く弾くといけないから柔らか く三線は弾くのだよ。
シッカク ヤワラカクグァー ンジティチョール ムン ウリンカイ ウタヌ アラサイネー タマ シヌ ケーヌギール グトゥヤ	せっかく柔らかく踊りが出てきているのに、 それに歌が荒かったら魂が抜けるぐらい驚く からね。
ウトゥヌ マギサ クーサシ タチカタンカイ ジャマ ナイーミ ナサキグァーヌ イッティ チューミ	音の大きさ、小さいで立方に邪魔になるか、 情が入っていくか。
ナラーチャン テンマン ミミヤ ウマカラ チ チャー ヒンギティ チゲー ワシティ イチュル ハジ ヤクトゥ ハジミティ チチャッサー ウ ヌ ホーゲノー ハジミティ ヤッサー ンディ ウムイネー エンピツ サーニ カチョーティ ティーチナー ティーチナー ウビティ イチ ネー	教えても耳はここから毎回逃げていって、次 回までには忘れていくはずだから、初めて聞 くな、この方言は初めてだなと思ったら鉛筆 で書いて一つ一つ覚えていくと。
トーゴエ ガーアビー ソール ヌファビシヤ モーラサランドー	遠くに聞こえるような声（遠声）。ぶっきら ぼうに大きく歌っている。これでは伊野波節 は踊らせないよ
ヌミジン	呑吟（歌唱法）
ナンドゥルー ナティ チカリンバーテー イッ トバー イットバー	締めりがなく聞こえる。一本調子、一本調子 に。
アティ	當（歌唱法）
ネーイ	ネーイ
ミグイグァー	巡り小（歌唱法）
ファイアギ	振上げ
ウチグイ	うちぐい（歌唱法）
チャー ガンジュー アッチミ シュービーミー	お元気でお過ごしですか？
ガンジュー	元気、健康
ガンジュー ソーイビンナー	お元気でしょうか？

キーワード	意味・動作など
フール	トイレ
カンダバー	芋の葉
チンナン	カタツムリ、アフリカマイマイ
ナンドゥル	締まりがない
ナンドゥルーシ ウタイネー	締まりのない歌をすると
ナンドゥルー ウドゥイスル チュンウイ	締まりの踊りをしない踊り手もいる
ナンドゥルサクトゥ キーチキティ アッキョー	滑るから気をつけて歩いてくださいね。
アリガ モートル ウドゥイヤ ナンドゥルサヌ	あの人の踊りは力強さがない
ナンドゥル モーイ	力強さがない踊り
ナンドゥル ウタシネー ナランドー	力のない歌をしてはいけないよ
ナンドゥル ウタシネー ナランドー	力のない歌をしてはいけないよ
ウタサナキグァー	歌ささげ
サンセンヌ チブヤ ヒジャイ イービ チトゥ ミ チュラウトゥニ ナシュル ワザトゥ ナユ サ	三線の勘所は左手の指の役目。美しい音となる技となるよ。
ニジリ バチ チケーヤ クマサチグァー チカ ティ	右手のバチ使いは、バチの先端を細かく使っ て。
チブ ヌギトードー	粒揃いの中でも特に目立っているよ
チャー タックァーシー	ずっとくっつけて

学生の反応・印象に残った言葉

- ①より実践的な指導法に受講生も熱心に耳を傾けていた。そして、指導された技芸をより多く習得し体現しようとする意欲的な姿勢が見受けられた。
- ②銘苅氏の幼少時の話や方言札の話聞き、現代の生活スタイルと大幅に異なっていることを理解している様子であった。また、当時の生活スタイルは伝統芸能の時代背景と類似しており、その実体験が実演に反映されていることも理解している様子であった。
実演においては細かい吟法や息遣い、また発声練習についての指導もあり、熱心に取り組んでいた。
- ③前回と同様に多くのことを受け取ろうという姿勢が伺えた。特に女性による男踊りの地謡の在り方を見出そうとする姿勢が見受けられた。
- ④歌詞によって1番と2番の歌い方に違いがあることを理解している様子であった。また、早弾き特有の三線の弾き方、リズムの取り方に少々苦戦している感じを受けた。また、楽譜に記載されている歌い方、仮名付けにとらわれてしまい、言葉の意味合いを理解しないままに歌っている感じを受けた。しかし、銘苅氏の指導により演奏の変化が見られ、本授業の成果が見出せた瞬間でもあった。

今年度の授業について

銘苅盛隆氏による地謡実技の指導が行われた。課題曲は「かせかけ」「高平良万歳」「鳩間節」「取納奉行」「金細工」で細かい節回し、吟使い、音程の取り方、リズムなどより実践的な指導が行われた。指導の合間の休憩時には、銘苅氏のこれまでの経験や師匠をはじめ、先達との交流を交えた話もあった。

早弾きの曲についてはリズムの取り方、歌詞の付け方、バチ使い、左手の使い方など、古典音楽とは異なる奏法を徹底的に指導していた。特に歌詞の付け方は「語るように」との指導があり、言葉や実会話を意識した歌い方の重要性を説いていた。まさに、本実践授業の目的を捉えた授業

が展開された。

次年度の取組について(今年度からの反省点、今後の展望など)

今年度は、受講生のやる気だけではなく、技量も高い上に曲のレパートリーも多くより高度な指導が行われた。また、課題曲の予習復習もしっかりなされており、授業の進み具合も大変スムーズであった。このようなことを鑑みと、本実践授業はある一定の技量や曲の習得の数によって実施が左右されるものであると感じている。したがって、次年度以降も同様な授業展開をするには、受講生の技量も同レベルでなければならない。学生の技量は学年によって差があり、技量のレベルが低い場合の実施方法を検討する必要がある。

3-8 学生による授業評価アンケート

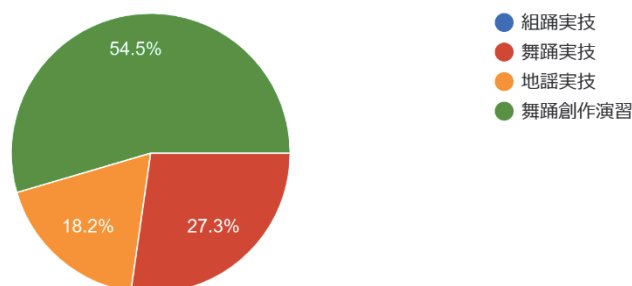
3-8-1 学生アンケート結果(令和5年度 前期)

令和5年度(前期)授業評価アンケート結果

このアンケートは、しまくとぅばによる授業を受講された学生を対象に、授業の御意見・御感想をお聞かせ頂くために行っております。頂いたご意見・ご感想は今後の授業の参考にさせていただきます。アンケート結果は年度末の報告書に掲載されます。成績への影響はありませんので、皆様のご意見・ご感想をお聞かせください。

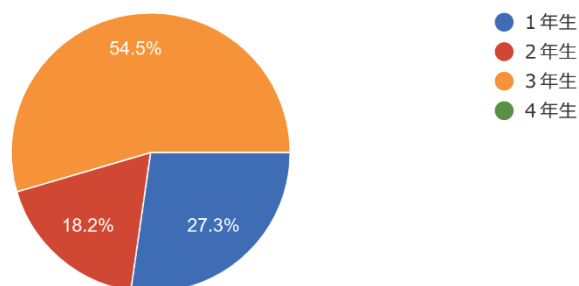
受講した授業名にチェックをお願いします。

11件の回答

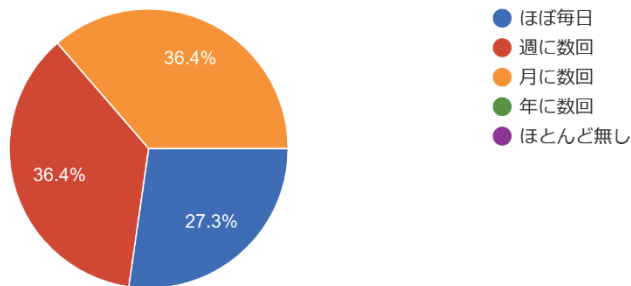


あなたの学年を教えてください。

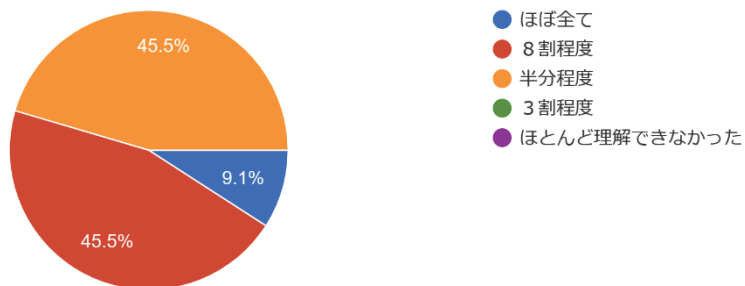
11件の回答



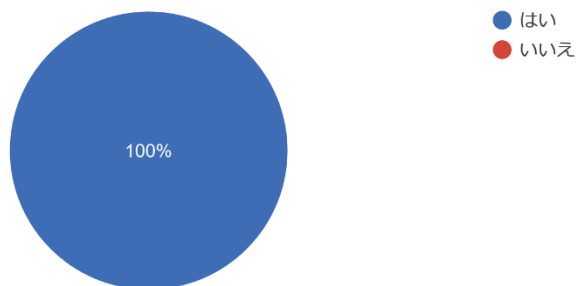
1ー①この授業を受けるまで。しまくとぅばに接する機会はどのくらいありましたか。
11件の回答



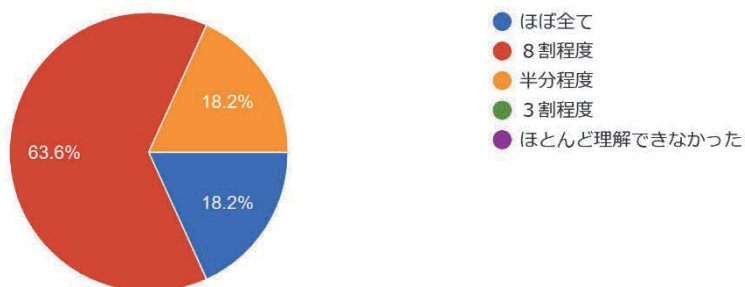
1ー②この授業を受けるまで。しまくとぅばをどれくらい理解できましたか。
11件の回答



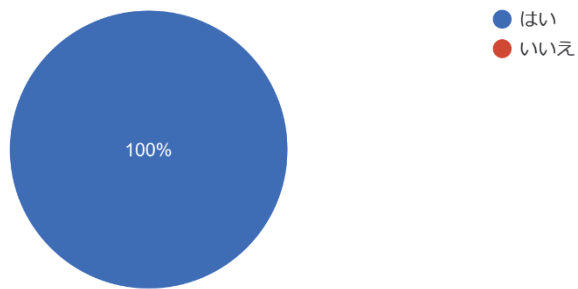
1ー③この授業を受けるまで。しまくとぅばを意識していましたか。
11件の回答



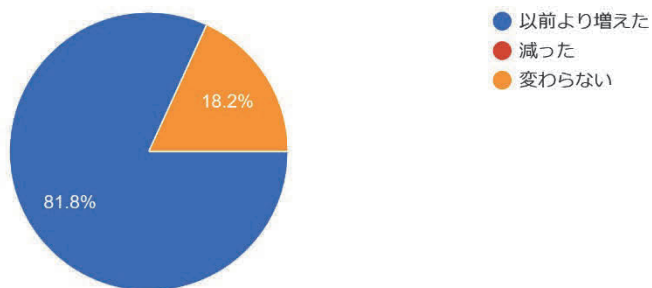
2ー①この授業を受けている間。授業内で使用されたしまくとぅばをどれくらい理解できましたか。
11件の回答



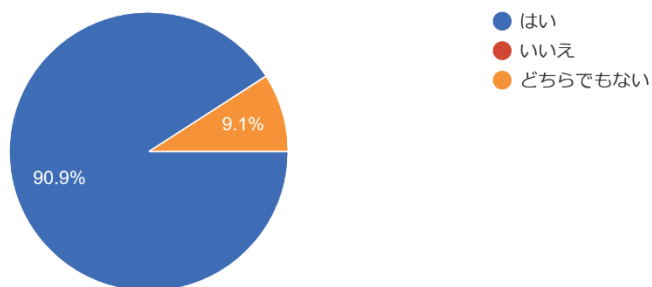
2-②この授業を受けている間。しまくとぅばを以前より意識していましたか。
11件の回答



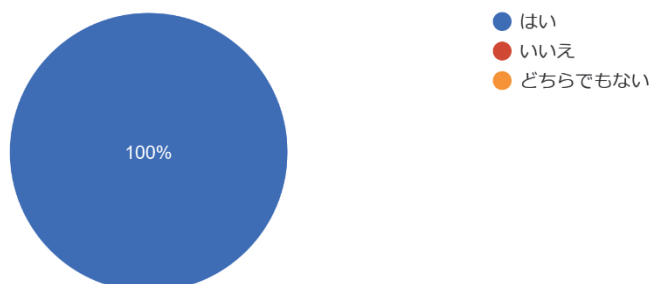
2-③この授業を受けている間。授業外でしまくとぅばを使用する機会はどのくらいありましたか。
11件の回答



2-④この実技指導は、標準語での指導と比べ理解しやすいと感じましたか。
11件の回答



3-①今後について。しまくとぅばに接する機会を増やしたいと思いますか。
11件の回答



3-②今後について。しまくとぅばをもっと学びたい・使いたいと思いますか。

11件の回答



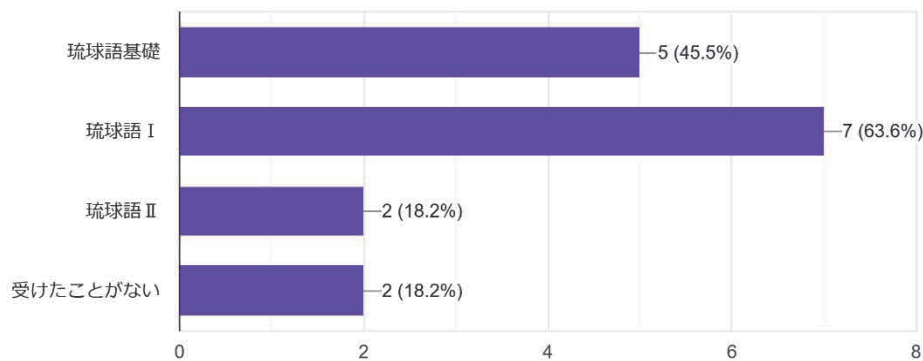
3-③今後について。しまくとぅばでの実技の授業をまた受けたいと思いますか。

11件の回答



4 下記の授業を受講された方は授業名にチェックをお願いします。(複数回答可)

11件の回答



5 授業の感想・意見、印象に残っている言葉などがありましたらご自由にお書きください。

- ・ 普段あまり使わない言葉(専門的な)を知れて良かったです。
- ・ 約半分、授業に参加しかできませんでしたが、最後の最後まで教えて頂いたことに本当にありがたかったです。いっぺーにふえーでーびたん
- ・ いちぬじゃしとうまじゅんしちやわたんかいねーちりいりれという言葉が印象に残った。
- ・ しまくとぅばでしか伝わらない肝心が感じた。とても良い取り組みだと感じた。
- ・ 役の演じ方や礼儀作法まで細かく学ぶことができました。方言の奥深さや大切さをより感じる良い機会でした。同級生の会話に方言が増えました。
- ・ 初めて沖縄芝居をやってみて、琉球舞踊や組踊とは違う動きや台詞回しを学べて、とてもいい経験になりました。とても楽しかったです。

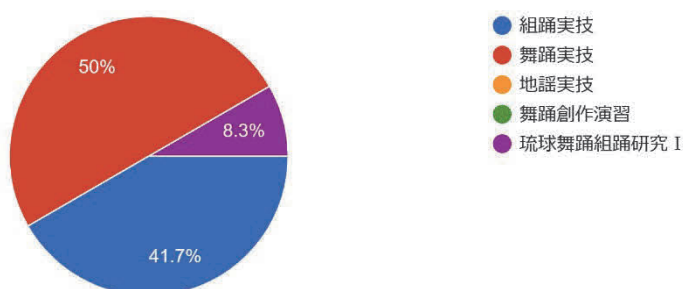
- ・しまくとぅば実践教育事業をうけ、しまくとぅばにふれ意識することが増えた。大変良い授業だった。
- ・「カンチリ カンチリ」という言葉の反対の意味が「やふあやふあー」と知れた！
- ・うっちゃかれー

3-8-2 学生アンケート結果(令和5年度 後期)

令和5年度(後期)授業評価アンケート (最終)

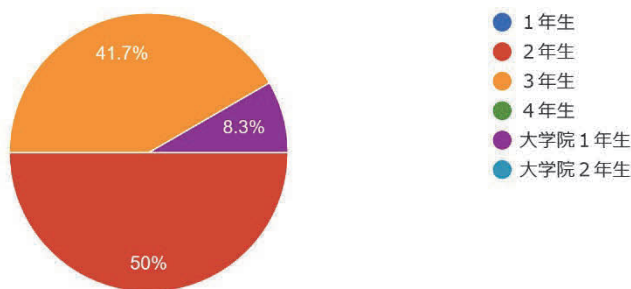
受講した授業名にチェックをお願いします。

12件の回答



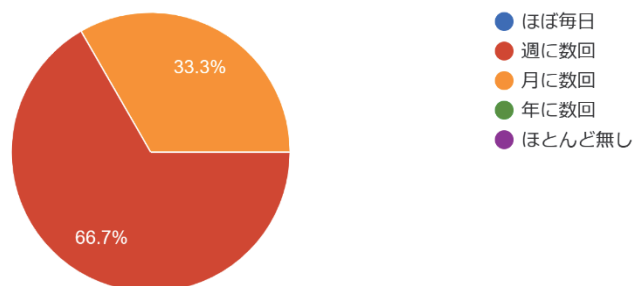
あなたの学年を教えてください。

12件の回答



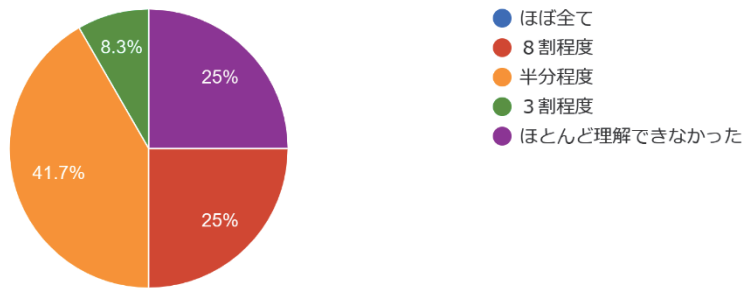
1-①しまくとぅばに接する機会はどのくらいありましたか。

12件の回答



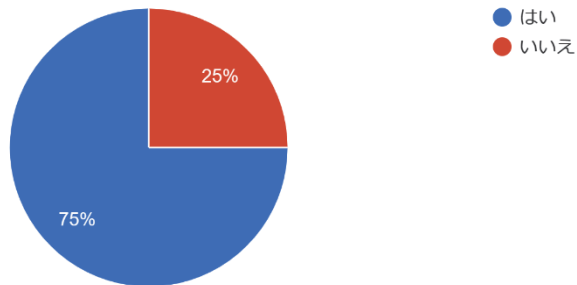
1-②しまくとぅばをどれくらい理解できましたか。

12件の回答



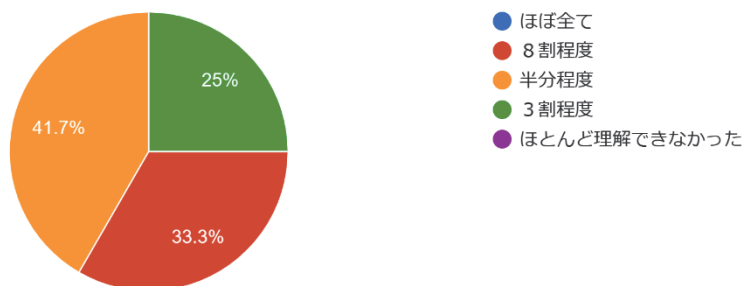
1-③しまくとぅばを意識していましたか。

12件の回答



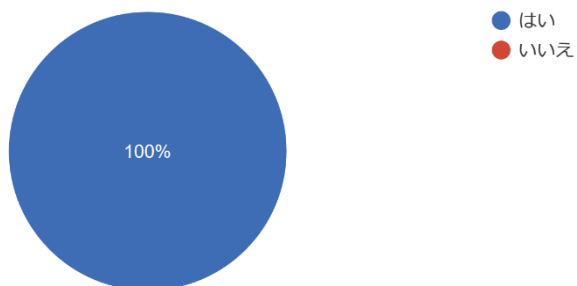
2-①授業内で使用されたしまくとぅばをどれくらい理解できましたか。

12件の回答



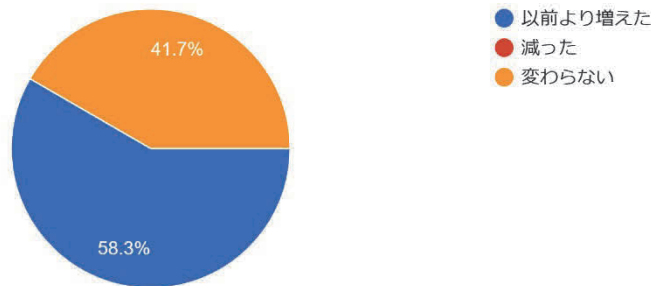
2-②しまくとぅばを以前より意識していましたか。

12件の回答



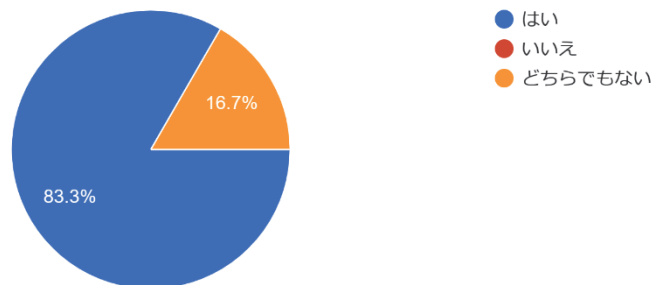
2-③授業外でしまくとぅばを使用する機会はどのくらいありましたか。

12件の回答



2-④この実技指導は、標準語での指導と比べて理解しやすいと感じましたか。

12件の回答



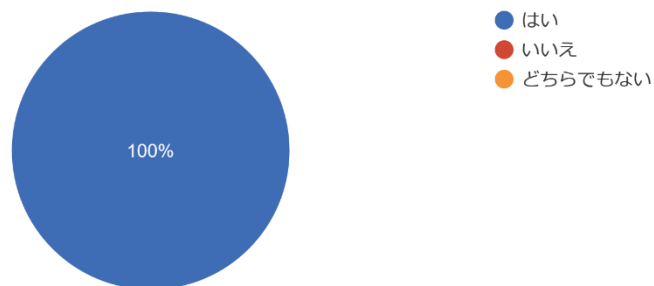
3-①今後について。しまくとぅばに接する機会を増やしたいと思いますか。

12件の回答



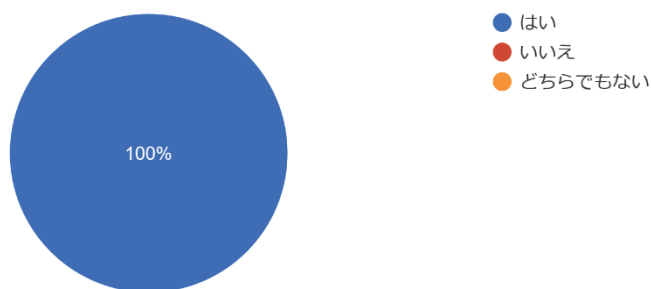
3-②今後について。しまくとぅばをもっと学びたい・使いたいと思いますか。

12件の回答



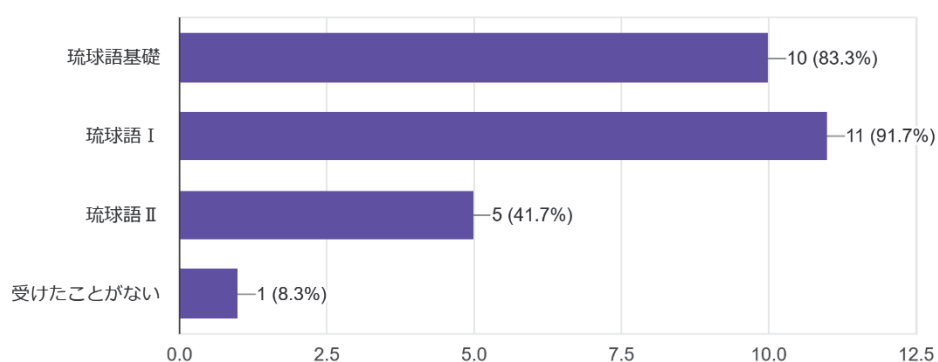
3-③今後について。しまくとぅばでの実技の授業をまた受けたいと思いますか。

12件の回答



4 下記の授業を受講された方は授業名にチェックをお願いします。(複数回答可)

12件の回答



5 授業の感想・意見、印象に残っている言葉などがありましたらご自由にお書きください。

8件の回答

- ・ネーチリ イリヨー、クシ イシレー、チル フミヨー、ドゥーティサーニ ウビリヨー
- ・標準語では言い表せないような所作や心構えなどを学ぶことができた
- ・講師からしまくとぅばを使っての授業、とてもわかりやすかった。貴重な時間になった
- ・より味わい深い言語で教えていただいた方が、ずっと理解しやすかったです。また、身近に話してくださる方もいないので、楽しい時間でした
- ・和吟と強吟の使い分けが印象的でした。由康先生、盛義先生との唱えの比較も大変勉強になりました
- ・興照先生からの和吟の唱え方がとても勉強になった
- ・しまくとぅばでしか伝えることのできない芸能の魅力を学ぶことができて幸せでした。
- ・いろいろな流派の唱えを比較して、実際に唱えたりルーツをお話くださって、とても勉強になりました

3-9 しまくとぅば関連授業の取り組み

3-9-1 詞章研究(鈴木)

講義概要

「詞章研究」講義は、前期に「詞章研究Ⅰ」、後期に「詞章研究Ⅱ」の内容で開催している琉球芸能専攻1年次の必修科目である。また、同専攻の2年次の必修講義である「詞章研究Ⅲ」は組踊における詞章を学ぶ講義である。担当教員は鈴木耕太である。講義テーマは「古典音楽・琉球舞踊に深くかかわる「琉歌」について学ぶ」こととし、本科目では沖縄の古典音楽や楽劇の詞章の基本をなす琉歌について、講義において詞章の語義・通釈・鑑賞を行っている。最終的に学生自身がこの琉歌形式になじみ、琉歌の韻律を体得し、琉歌の解釈が自力で出来るような知識と方法の習得をめざす。各講義のシラバスは以下の通りである。

詞章研究Ⅰ

- 第1回：琉歌および琉歌集についての概説(琉歌集というテキストについて)
- 第2回：琉歌および琉歌集についての概説(詠み歌と唄について)
- 第3回：琉歌および琉歌集についての概説(琉球舞踊に用いられる琉歌と本歌について)
- 第4回：琉球舞踊の琉歌の解釈①古典女踊「作田」
- 第5回：琉球舞踊の琉歌の解釈②古典女踊「かせかけ」
- 第6回：琉球舞踊の琉歌の解釈③古典女踊「柳」
- 第7回：琉球舞踊の琉歌の解釈④古典女踊「天川」
- 第8回：琉球舞踊の琉歌の解釈⑤古典女踊「本貫花」
- 第9回：琉球舞踊の琉歌の解釈⑥古典女踊「諸屯」
- 第10回：琉球舞踊の琉歌の解釈⑦古典女踊「伊野波節」
- 第11回：琉球舞踊の琉歌の解釈⑧古典女踊「苧引」
- 第12回：琉球舞踊の琉歌の解釈⑨古典女踊「本嘉手久」
- 第13回：琉球舞踊の琉歌の解釈⑩古典女踊「稲まづん」
- 第14回：琉球舞踊の琉歌の解釈⑪古典女踊「瓦屋節」
- 第15回：琉球舞踊「女踊」の琉歌の解釈 まとめ

詞章研究Ⅱ

- 第1回：雑踊の琉歌の解釈①「花風」
- 第2回：雑踊の琉歌の解釈②「浜千鳥」
- 第3回：雑踊の琉歌の解釈③「むんじゅる」
- 第4回：雑踊の琉歌の解釈④「谷茶前」
- 第5回：雑踊の琉歌の解釈⑤「加那よー」
- 第6回：琉球古典楽曲の琉歌の解釈①「かぎやで風節」(他、上巻に収録されているもの)
- 第7回：琉球古典楽曲の琉歌の解釈②「金武節」(他、上巻に収録されているもの)
- 第8回：琉球古典楽曲の琉歌の解釈③「特牛節」(他、上巻に収録されているもの)
- 第9回：琉球古典楽曲の琉歌の解釈④「十七八節」(他、中巻に収録されているもの)
- 第10回：琉球古典楽曲の琉歌の解釈⑤「茶屋節」(他、中巻に収録されているもの)
- 第11回：琉球古典楽曲の琉歌の解釈⑥「永伊平屋節」(他、中巻に収録されているもの)
- 第12回：琉球古典楽曲の琉歌の解釈⑦「散山節」(他、下巻に収録されているもの)
- 第13回：琉球古典楽曲の琉歌の解釈⑧「仲風節」(他、下巻に収録されているもの)
- 第14回：琉球古典楽曲の琉歌の解釈⑨「述懐節」(他、下巻に収録されているもの)
- 第15回：雑踊・古典楽曲の琉歌の解釈 まとめ

詞章研究Ⅲ

- 第 1 回：組踊についての概説①(組踊の歴史：1719年・1756年の冊封)
- 第 2 回：組踊についての概説②(組踊の歴史：1800年～戦前期まで)
- 第 3 回：組踊の詞章解釈「執心鐘入」①(着付・配役)
- 第 4 回：組踊の詞章解釈「執心鐘入」②(若松の出羽～あるじ女との問答)
- 第 5 回：組踊の詞章解釈「執心鐘入」③(あるじ女との問答～末吉の寺)
- 第 6 回：組踊の詞章解釈「執心鐘入」④(寺の小僧達の問答)
- 第 7 回：組踊の詞章解釈「執心鐘入」⑤(鬼女変化の場～「いのり」)
- 第 8 回：組踊の詞章解釈「執心鐘入」⑥「執心鐘入」まとめ
- 第 9 回：組踊の詞章解釈「護佐丸敵討」⑦(着付・配役)
- 第10回：組踊の詞章解釈「護佐丸敵討」⑧(あまおへの出羽～二童の出羽)
- 第11回：組踊の詞章解釈「護佐丸敵討」⑨(母と二童の別れの場)
- 第12回：組踊の詞章解釈「護佐丸敵討」⑩(あまおへの春遊びの場)
- 第13回：組踊の詞章解釈「護佐丸敵討」⑪(あまおへの春遊びの場～仇討)
- 第14回：組踊の詞章解釈「護佐丸敵討」⑫「護佐丸敵討」まとめ
- 第15回：組踊の詞章解釈 まとめ

しまくとぅば関連の取り組み

本講義は琉球古典語を学習することを目的としているが、琉球古典語は「首里ことば」の韻文体であるため「しまくとぅば」と密接な関係を持っている。また、琉歌によっては口語体、すなわち「首里ことば」を用いたものもあるため、「しまくとぅば」を学習することで本講義の理解度も深化する。今年度は昨年度の取り組み同様、琉球芸能専攻1年次の必修科目「詞章研究Ⅱ」において、「琉歌を創作する」という講義を実施した。古い琉歌の構造を講義しながら、その「構造」に合わせて受講生が琉歌を創作する、というものである。実際に琉歌を創作することが初めての学生が多かったが、韻文の琉歌の創作について、意欲が多いに見られた。今後は実作の機会を多く持ちたいと思う。

4 「聖田京子 講演会 しまくとぅばを次世代につなぐ ～ハワイ・沖縄の事例を通して～」

4-1 講演会概要

開催趣旨

「しまくとぅば」または「琉球諸語」は2009年にユネスコにおける「消滅危機」にある言語として認定されている(参考：奄美語、沖縄語、国頭語は危機にあるとされ、八重山や与那国の言葉はさらに深刻で重大な危機にあるとされている。)

しまくとぅば普及については沖縄県内でも様々な取り組みがなされているが、ユネスコの指摘している危機を脱するに至っていない。同じく消失の危機にあったハワイ語は、1970年代より言語復興の取り組みが行われ、公教育への導入や公用語としての使用、さらにはハワイ語のみでの教育などにより、現在の話者は数千人を超えているといわれている。そのような中、ハワイにおいて、同じく「危機言語」としてのしまくとぅばを教える取り組みを行い、大学教育に取り入れられた聖田京子先生をお迎えし、お話を伺うとともに、聖田先生とともに「しまくとぅば実践教育プログラム開発事業」を作り、実際の授業で取り入れている沖縄県立芸術大学の取り組みも紹介していく。講演会を通じて多くの方々にしまくとぅば教育に興味を持ってもらうとともに、今後の普及活動に資することを目的として本講演会を開催するものとする。

開催日：2023年5月7日(日)午後2時(1時開場)

会場：沖縄県立芸術大学 奏楽堂

オープニング舞踊

「農民口説」宮城流美和乃会廣山えりか舞踊研究所

「口説囃子～八重瀬町志多伯豊年祭より～」沖縄県立芸術大学琉球芸能専攻学生有志

第1部

「沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育プログラム事業」の取り組みについて

鈴木 耕太 沖縄県立芸術大学芸術文化研究所准教授・しまくとぅば実践教育プログラム開発事業
プロジェクトリーダー

比嘉いずみ 沖縄県立芸術大学音楽学部教授

宮城 幸子 しまくとぅば事業特別講師・琉球舞踊 重要無形文化財保持者(人間国宝)

第2部 講演

講師 聖田 京子 氏



しまくとぅばを次世代につなぐ ハワイ・沖縄の事例を通して 聖田京子 講演会

開催日／会場

2023年5月7日(日)午後2時(1時開場)

沖縄県立芸術大学 奏楽堂 那覇市首里当麻 1-4

※会場内はマスク着用 感染症対策として入場時に氏名連絡先の記入をお願いします

オープニング舞踊

「農民口説」宮城流美和乃会廣山えりか舞踊研究所

「口説囃子～八重瀬町志多伯豊年祭より～」沖縄県立芸術大学琉球芸能専攻学生有志

第1部 「沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育プログラム事業」の取り組みについて

鈴木耕太 沖縄県立芸術大学芸術文化研究所准教授
しまくとぅば実践教育プログラム開発事業プロジェクトリーダー
比嘉いずみ 沖縄県立芸術大学音楽学部教授
宮城幸子 しまくとぅば事業特別講師・琉球舞踊 重要無形文化財保持者(人間国宝)

第2部 講演 講師 聖田 京子 氏

第3部 パネルディスカッション「次世代につなぐ座談会」

パネリスト 聖田京子 ハワイ大学名誉教授
高山朝光 元沖縄ハワイ協会会長
鈴木耕太 沖縄県立芸術大学芸術文化研究所准教授
神谷武史 沖縄県立芸術大学音楽学部講師
他1名(予定)
コーディネータ 親川志奈子 沖縄ハワイ協会青年部長兼理事

主催 沖縄県立芸術大学・沖縄ハワイ協会

問い合わせ 沖縄県立芸術大学 芸術文化研究所 098-882-5040
沖縄ハワイ協会 098-886-5656 (有 エバ・グリーン/平日10時～17時)

第3部 パネルディスカッション「次世代につなぐ座談会」

- パネリスト 聖田 京子 (ハワイ大学名誉教授)
 高山 朝光 (元沖縄ハワイ協会会長)
 鈴木 耕太 (沖縄県芸術大学芸術文化研究所准教授)
 神谷 武史 (沖縄県芸術大学音楽学部講師)
 琉球芸能専攻学生
- コーディネータ 親川 志奈子 (沖縄ハワイ協会青年部長兼理事)

講師略歴

聖田京子(旧姓大城) 教育学博士

ハワイ州立ハワイ大学マノア校 東アジア文学・言語学科 名誉教授。

真喜屋小一 那覇中一 那覇高校一 慶應義塾大学(通信教育課程)、インディアナ大学からハワイ大学に編入、修士号を取得後、ハワイ大学教育学部より博士号を取得。

留学前は、県内企業で6年、中高の教員として4年間勤務。ハワイ大学では、40年に渡り教鞭をとり、Center for Okinawan Studies 沖縄研究センター所長を務めたのち、2010年にハワイ大学名誉教授。現在も、教育・研究活動を続けている。在職中、ハワイ大学やハワイ言語教員会よりティーチング・アワードを受賞。2011年、日本政府より瑞宝中綬章を受賞。

ハワイに学ぶ言語継承 7日、県芸大でイベント

沖縄ハワイ協会と県立芸術大は7日午後2時から、イベント「しまくとぅばを次世代に繋(つな)ぐ〜ハワイ沖繩の事例を通して」を那覇市の同大演奏堂で開催する。入場無料。県出身の聖田京子ハワイ大名

誉教授を講師に、ハワイでの言語復興や保存事例について紹介する。県立芸大で取り組みが進む「しまくとぅば実践教育プログラム事業」の報告や、識者によるパネルディスカッションも催される。オープニングには、琉球舞踊の披露もある。問い合わせは県立芸大芸術文化研究所、電話098(882)5040。

しまくとぅばで芸能指導 ハワイに学ぶ言語教育

特別講師を招聘し、琉球舞踊・琉球音楽・郷土の芸能の復興や保存事例について紹介する。県立芸大で取り組みが進む「しまくとぅば実践教育プログラム事業」の報告や、識者によるパネルディスカッションも催される。オープニングには、琉球舞踊の披露もある。問い合わせは県立芸大芸術文化研究所、電話098(882)5040。

聖田京子氏「しまくとぅば講演会」に寄せて

鈴木 耕太

この出身、長きに亘って教育について考える機会を提
 供し、ハワイ大学で
 育ち、学生が沖縄にルーツを
 持つ、またはいかに
 聖田京子先生の講演「しまくとぅばを次世代につなぐ〜ハワイ沖繩の事例を通して」は7日午後2時から、県立芸術大演奏堂で開催する。入場無料。県出身の聖田京子ハワイ大名

特別講師を招聘し、琉球舞踊・琉球音楽・郷土の芸能の復興や保存事例について紹介する。県立芸大で取り組みが進む「しまくとぅば実践教育プログラム事業」の報告や、識者によるパネルディスカッションも催される。オープニングには、琉球舞踊の披露もある。問い合わせは県立芸大芸術文化研究所、電話098(882)5040。

(19) ひと・暮らし 2023年(令和5年) 5月13日 土曜日



講演する聖田京子
ハワイ大名那覇市首
里の県立芸術大

しまくとぅば「文化と一体」 聖田京子氏、ハワイ事例紹介

しまくとぅばの教育や今後の普及活動に向けて、ハワイの事例から学ぼうと、県立芸術大と沖縄ハワイ協会が7日、県出身のハワイ大学名誉教授の聖田京子さんを招き、県立芸大演奏堂で講演会が開かれた。聖田さんはハワイ大で40年にわたり教壇に立ち、沖縄研究センター所長を務めた。沖繩語禁止の時代に育ったため、自身はしまくとぅばを話さなかったが、やんばるの歌三線の中で育った

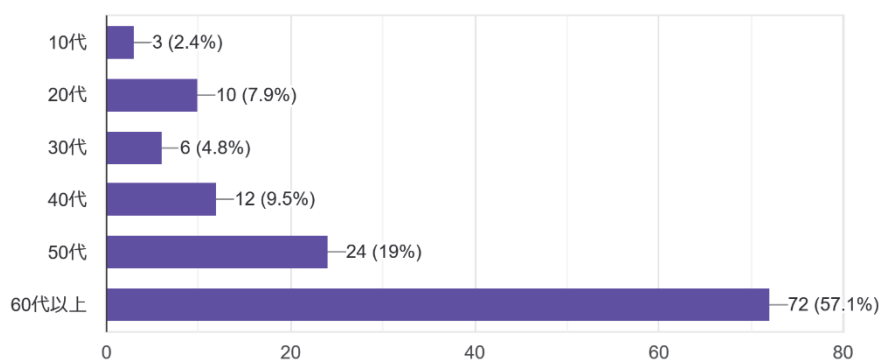
の言葉や聞いた話、分かったという。ハワイの沖繩コミュニティでは、琉球舞踊や三線を習う人も多いことから「言葉と文化は一体、言葉がなくなったら味わいからなくなる。沖繩の文化が消えていかないためにハワイでできることを頑張りたい」と話した。

パネルディスカッションでは元那覇市助役で元ハワイ協会会長の高山朝光さん、県立芸大芸術文化研究所准教授の鈴木耕太さん、同大講師の神谷武史さん、同大琉球芸能専攻の部長の俊輔さんらが登壇。コーディネーターはハワイ協会理事の親川志奈子さんが務めた。最後に玉城テーク知事も登壇し、しまくとぅばをあいさつした。会場には200人(主催者発表)が来場した。(麗土城七瀬)

4-2 「聖田京子 講演会」アンケート結果

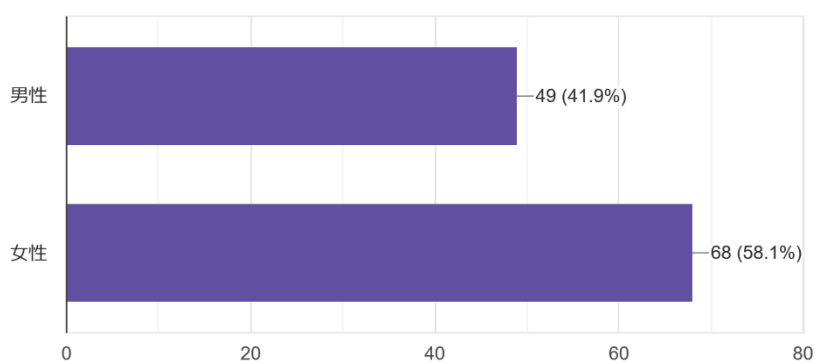
1-1 あなたについて該当するところを選択してください。（年齢）

126 件の回答



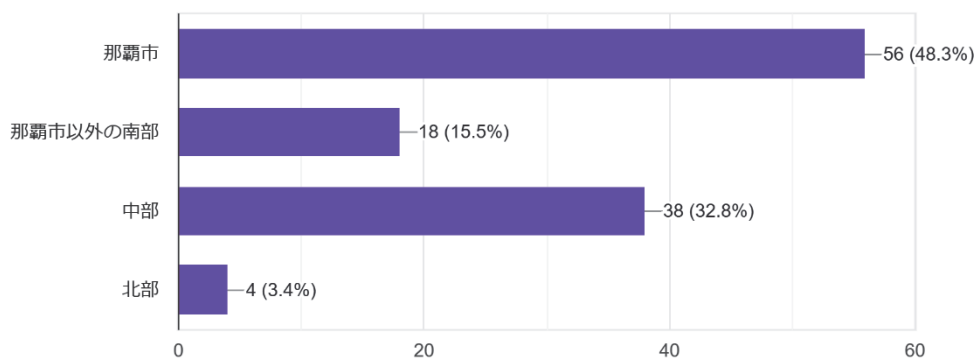
1-2 あなたについて該当するところを選択してください。（性別）

117 件の回答



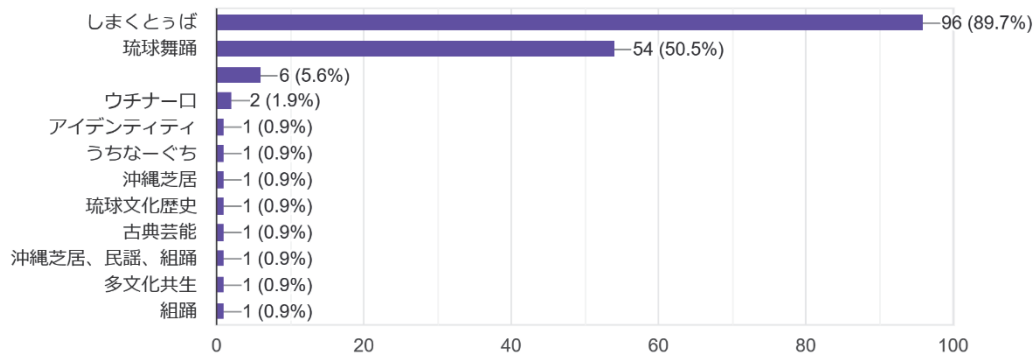
1-3 あなたについて該当するところを選択してください。（地域）

116 件の回答



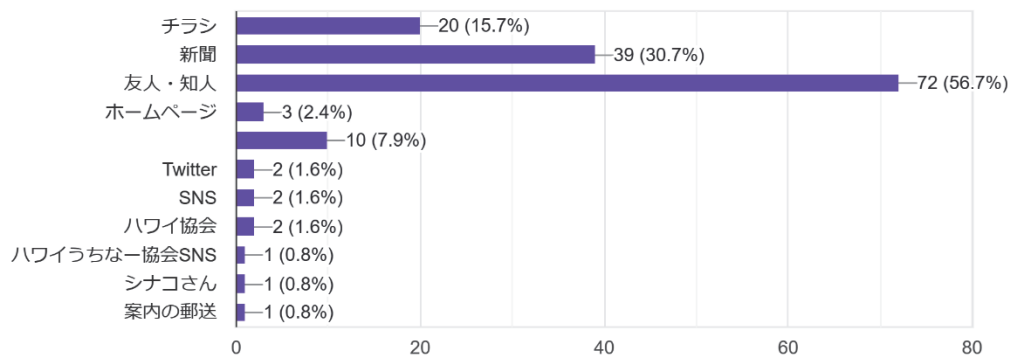
1-4 あなたについて該当するところを選択してください。（興味のある内容）

107件の回答



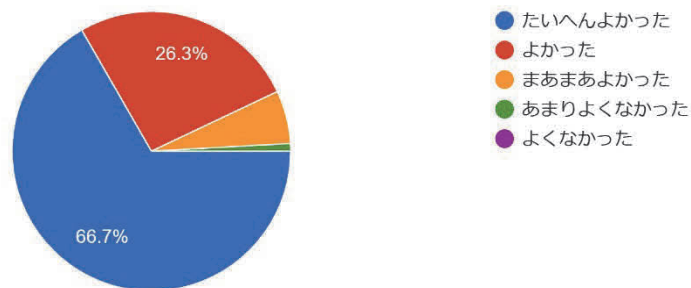
2 このイベントをどのようにして知りましたか？ 該当するのを○で囲んでください。

127件の回答



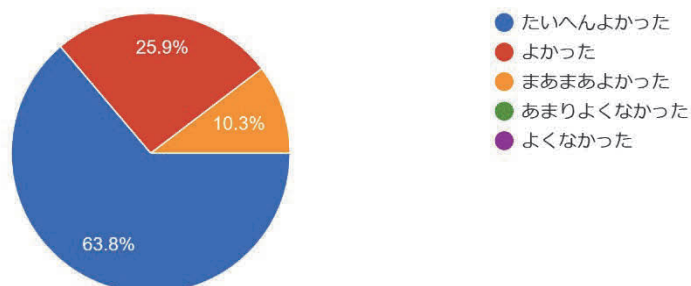
3-1 今回のイベントについて該当するのを選んでください。(1)本日の講演はいかがでしたか？

114件の回答



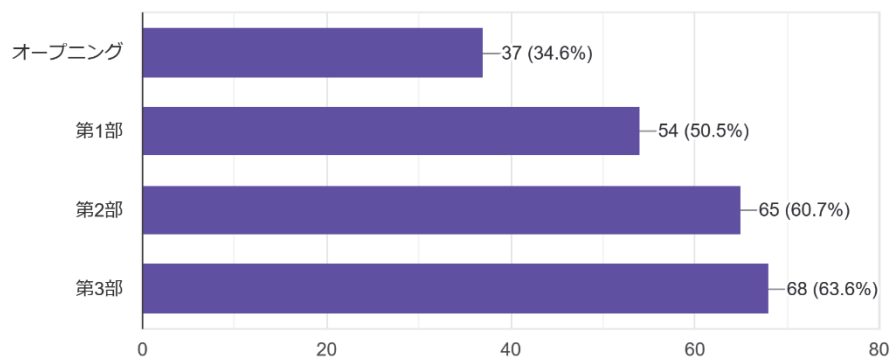
3-2 今回のイベントについて該当するのを選んでください。(2)幕開け舞踊はいかがでしたか？

116件の回答



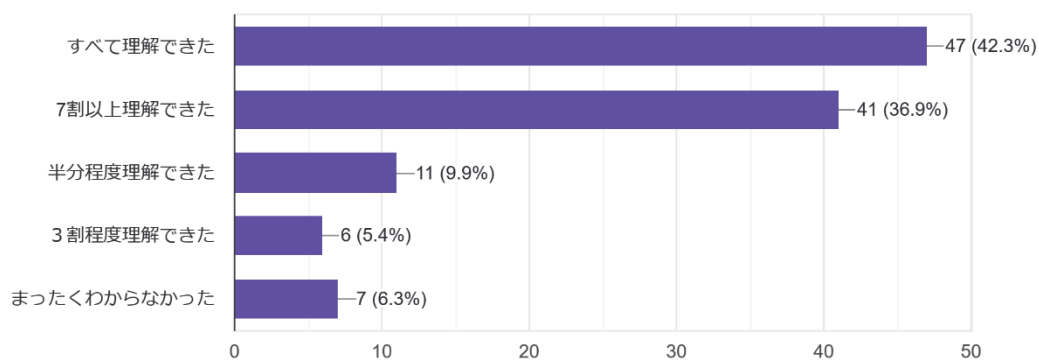
3-3 (3)本日のイベントの中で興味、関心があったものを選択してください。

107件の回答



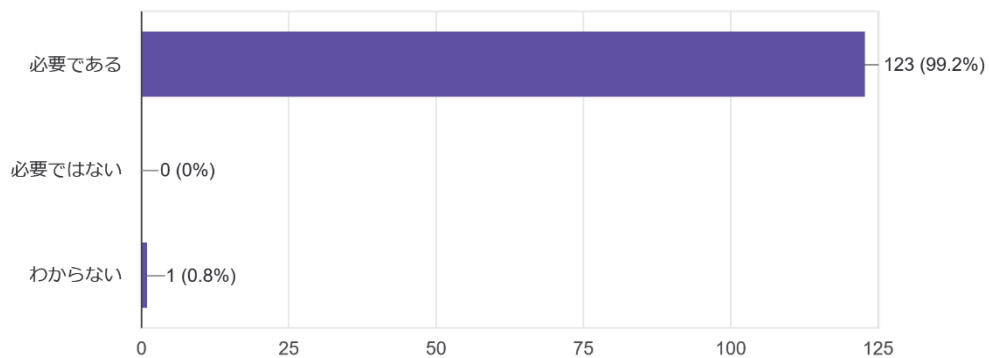
3-4 本日のしまくとぅばをどの程度理解できましたか？

111件の回答



4 本学,琉球芸能専攻におけるしまくとぅば事業について(1)どのようにお考えでしょうか？

124件の回答



(2) 本事業および今回の講演会についてご意見・ご感想、次回への要望などありましたらお書きください。

101件の回答

- ・パネリストの熱い思いが素晴らしい！教育の中に組み合わせること！大事ですね。
- ・文化・芸能や肝心を継承していくためにもうちなーぐちが必要不可欠だと改めて感じました。幼少期からあたりまえに言葉にふれる環境づくりを県民一丸となって取り組めたら素晴らしいと思います。とても学びになりました。いっぺーにふえーでーびる。
- ・聖田先生のやさしいお言葉は、沖縄人のチムグルクがよく表現されてます。ありがとうございました。幕開けは見てない。
- ・芸大だけでなく、今後は中部やヤンバル、島尻、離島各地でも開催してほしい。しまくとぅばは7割以上あいさつは理解できた。芸能は3割理解できた。
- ・しまくとぅばに触れる機会がなく、講演中の言葉は理解できなかったが、今回参加できたことで、知りたいと思えたし、興味をもった。ハワイと沖縄のつながりもやはり深く勉強になりました。聖田先生の講話とても貴重で聞けて良かったです。文化、芸能と言葉は一体、すぐわかりやすく重要性をより感じました。有意義な時間でした。ありがとうございました。
- ・聖田先生、宮城先生素晴らしい講演会お話が戦前の話をうちなーぐちで聞くことができる機会を頂き誠にありがとうございました。これからも芸大を通してうちなーぐちをいろいろな方法で伝えてほしいと強く願います。子供達、学生の踊りもよかった。神谷さんの御提案もすばらしかったです。「黄金言葉」が勉強になりました。
- ・沖縄県立芸大の神谷がおっしゃっていましたように、沖縄県の教育長庁が学校の授業の科目に取り入れるべきだと思います。貴大学も県立の学校ですので、学術的な面からも是非強く上申していただきたい。沖縄県の教育長にしたいです➡芸大 神谷武史氏を
- ・芸能を学ぶのであるからうちなーぐちをもっと使うべき。大学では生徒も教授も（せめて半分くらいは）うちなーぐちを話してほしい 使ってほしい 芸大卒業生を積極的に県庁や市町村職員に登用して沖縄を出すべき
- ・このような勉強会が多くひらかれると良いですね。小中学校でもうちなーぐちを教えられるといいなあ。マネージメントに大変興味があります。私は老人介護現場で働いています。ほとんどの会話を私はうちなーぐちでおこなってますが、お年寄りの方でもうちなーぐちは中々、速答できません。皆さん笑うのです。笑われてもいいからうちなーぐちワシーネーナイピラン イチおむとーいびーん。神谷さんすばらしい!!
- ・たいへんよかったです。今後も色々な企画をお願い致します。いっぺーにふえーでーびる
- ・聖田先生の話が十分に聞けなかったことが残念でした。（声がききとりにくかった）
- ・沖縄県として力を入れていくべき継続していくべき事業内容でした。
- ・首里で生まれ育ったのですが、あまり沖縄の言葉や伝統芸能に興味が無くて知識も乏しいので今回とっても地域を知る良い機会になりました。ありがとうございました。
- ・あらためてしまくとぅばを保存・継承していくことの大切さを実感しました。登壇者、スタッフの皆様に感謝申し上げます。
- ・これからも外向けに発信して欲しい。今回は本当に良い企画に参加出来ました。ハワイでの授業の様子、聖田先生の日本語教育の関わり、現芸大の学生達の様子が一緒に見られて良かった。
- ・口説のうちなーぐち発音 松→まつい 竹→だき 梅→んみ ?
- ・それほどむずかしくないのでzoomまたはWebexでの受講もあってもよいかと思います。ただ著作権の問題があるのでそのあたりはクリアにしないといけませんが。
- ・人間国宝の宮城幸子先生の実技がとても勉強になりました。しまくとぅばでなく「沖縄ぐち」が良いと思います。

- ・オープニングの子供たち、おはやしのうちな一口の意味を分からないながらも歌ってくれた。きっと大きくなってそれを覚えていると思う。
- ・素晴らしい企画ですので毎年やってください。
- ・素晴らしい講演会でした!! プログラム構成もよく考えられていて、長時間でしたがとても楽しめました。第一部の鈴木先生のプログラム紹介がとてもおもしろかったです。第三部の神谷さんのお話、とても大切だと思いました。オナガさんすごいですね。(言葉も姿勢の良さも!!) デニーさんうちな一ぐちかっこよかった。
- ・地域の伝統芸能も後継者が年々少なくなってます。子供会で子供達に教えて十五夜に参加させたりしていましたがコロナで中止が続き継続が難しいこともあります。うちな一ぐちを文化・芸能などを通して学校の授業に取り入れるのは良いと思います。
- ・文化が亡くなると言葉がなくなる、言葉がなくなると国がなくなる 教育の場で是非活かしてほしいと感じます。
- ・沖縄の文化を継承するにはしまくとうばが欠かせません。しまくとうばを次世代につなぐ活動にもっと力を入れてほしい。
- ・ウチナーには黄金くとうばたくさんある。大事にしたい。精神的財産である。「長寿者に敬意を持って接すること」首里口のウチナー口の共通語化には、反対したい。みんなが理解するなら日本語しゃべればよい。他のウチナー口はなくなる。
- ・素晴らしい内容に感動いたしました。県民に広めることを希望します。
- ・大変ためになりました。又是非また来たいです。
- ・言葉が文化の入り口になるので、沖縄でももっとしまくとうばが復活してほしい!
- ・ハワイの方がウチナー口で会話し学んでくれている事に自分もより、日頃常にウチナー口で生活していかないとと思いました。共通語の話はウチナー口を残す為必要と思いました。
- ・大正13年生まれの伯母は「戦前へウチナーやハワイんかいある」とよく言っていた。移民で行った親戚はりゅうちょうなウチナー口を話していた沖縄に住んでいる者がウチナー口を使わなくなっていると嘆いていたことを思い出す。我々年配者がとにかく使う事が大切だと思っている。夫婦の会話から始めるといいと思っていて、夫と使うようにしている。まずは身近な人とまた子供にもウチナー口で話かけると単語、単語が少しずつわかるようになっていく。
- ・聖田先生の心からのお話、とても感動をうけました。みなさんの提言から、日常でも少しずつ勉強していきたいです。
- ・しまくとうばではなく琉球諸語との表記がいいと思います。
- ・言葉はつかわれなくなるとだんだん忘れていく、島ぬ言葉忘りーねー国失しないん。という様にウチナー口を話す機会や会話が日頃の生活の中で少なくなりつつある。幸い沖縄ぐちを学ぶ環境には歌、三線、踊り等といった素晴らしい文化が生きている。それらを学び研究発展することは少なからずウチナー口をの活用化につながると思う。
- ・本日のイベントの開催ありがとうございます。勉強になりました。今後のそれぞれの取り組みの発展・継承の成功を祈っています。
- ・専門的なのも大事だが、興味のない人や関わる機会がない人でも入りやすい、触れやすいやさしい入門が必要ではないかとも思う。
- ・琉球舞踊の歩き方の体験があった。質問アンケート用紙があった様に来場者同士や来場者登壇者をつなぐ場や参加型のしまくとうばプログラムがもっとあったらと思いました。
- ・私はウチナー口がいいと思います。私はウチナー口にほこりをもっています。
- ・このような講演会をもっとはやくやってほしい。もっと多くの人にもひろめたい。大変勉強になりました。失ってから大事なものがわかったということにならないようにこれからも大事なものを守っていきたく切に思う。
- ・小中高で沖縄の芸能やしまくとうばをふれる場をつくることは賛成

- ・実践教育とても興味深く拝見しました。その土地の文化と共に根差す“技言葉”についてもっと知りたいと思いました。
- ・ウチナー口を取り戻すための学校教育の正規のカリキュラムへ！
- ・琉球語が本来日本語とはちがう言葉という意味で、琉球諸語を民族の言語として言語教育、言葉研究にこれから取り込めるようになってほしいと願っています。
- ・しまくとぅばを話せない、貧した状況というのはうちなーんちゅのせいではないし、ハワイの先住民がハワイ語で話せないのもカナカマオリのせいではないはず。じゃあなぜ貧しているのか？に踏み込んだ話をして欲しいと思いました。
- ・「うちなーぐち」が沖縄中南部域の言語をあらわすと仲原先生のオンライン講座であり、「しまくとぅば」は広く沖縄諸地域をあらわす言語と理解しているのですが、どうもうまく浸透してないようです。「うちなーぐち」以外の「しまくとぅば」も残す必要があるということをしてできれば市町村広報などを利用して周知させるなど対策が必要だと思います。
- ・聖田先生の今までのご苦勞は大変だったんですね。これからも沖縄の舞踊指導の中での「うちなーぐち」はとてもあじくーたーでした。素晴らしかった。児童の踊りがとてもかわいくってすごくよかったです。
- ・わらびんちゅーぬ踊り口説ぬでいきとーたくとぅよーういーりきさいびーん。若さは未来！いっぺーにふえーでーびたん。オナガ君かわいい〜。
- ・私は現在68歳です。周りの70歳前後の人は、もうしまくとぅばを少しは聞けますが、ほとんど？全く？話せません。しまくとぅばはここ10年くらいで「消滅言語」となることが目に見えています。全県あげての盛り上がりがないのが心配です。
- ・舞踊の口説きはほぼ聞きとれなかった。それ以外は理解できた。
- ・うちなーぐちを話せるようになりたいです。芸大がその場を提供して勉強させてもらえるといいなと思います。行政が先導して学校のカリキュラムにとり入れることを期待します。今日現場を設けてくださったことに感謝します。ありがとうございました。
- ・全部大変すばらしく思いました。1、しまくとぅばを全琉球の言語を（共通語）として、設定すること 2、しまくとぅば（共通語）を学校教育に取り入れ。上記の2つの課題を一日も早く実行を願っています。
- ・わざわざ、とうさハワイからめんそうち、うたびみそうちしたたかにへーいびーたんしまくとぅば、未来の子供達に継承してください 本日はありがとうございました。お疲れ様、大変良かったです。
- ・県内の小中高でも、もっと共通理解言語の勉強ができたらいいですね。
- ・島くとぅばあまり使われないのでだんだん忘れかけています。学校でも授業の中にとり入れてはと思います。
- ・たくさんの熱い思いを聞きうちなーぐちへの興味と理解していきたいと思いました。
- ・しまくとぅばから琉球古典語、共通語までの提言、聖田先生ので協力また、これからはとても若い先生方がたのもしく良かったです。ただ、戦後唯一のひとりで方言ニュースや方言研究していた仲井真元楷先生の名前が出てなくてなぜなのか？淋しく感じました。
- ・子供達からの方言が聞けたらいいなあ 沖縄口の勉強させてほしい。
- ・パネリストの方々は意識高いと思いますが実践者としての姿を見せてほしかった。ちゅくとぅばやていんうわいぬ「いっぺーにふえーでーびる」んでいいゆるくとぅがる一歩んかいならんがやーんでい思やびたん。シナコさんデニーさんしたいひゃー！
- ・英語と同じようにうちなーぐちも会話を（会話学習）優先したらどうでしょうか？
- ・ハワイ語復興の成功例がきけると思ってきたがちよっと違っていました。「沖縄独自の復興策」を探っていないといけないなと思った。
- ・聖田先生のお話、舞踊の練習風景等大変勉強になりました。これからしまくとぅばを勉強して

いきます。にふえーでーびる！

- ・今後も様々なゲストを招いて、多角的な「しまくとうば」の意見や見識、議論を聞きたい。
- ・頑張りましょう！
- ・素晴らしい企画・講演会を開催して下さり感謝申し上げます。うちなーんちゅとしてのアイデンティティーを忘れないためにもしまくとうば普及、次世代へつなぐ、本事業のご成功を祈念致します。宮城幸子先生のしまくとうばの「技言葉」とても腑に落ちました。ありがとうございます。こども園や児童クラブでうちなーぐちを教えています。自信をもって教えていきたいと思えます。
- ・多様性が叫ばれている時代に「うちなーぐちを標準語に」というのは理解できない。昔、日本政府が沖縄にやったことと同じことをやろうとしているのでは？ マイノリティの気持ちを考慮しないマジョリティの理論ではないでしょうか？ 高山さんのご意見を聞いてとても残念に思いましたが、いろいろ考える良い機会にはなりました。ありがとうございます。
- ・1、やはり「しまくとうば」では、沖縄グチである。2、沖縄口の必要性和現在（標準語で十分コミュニケーションができる）キャップである。3、沖縄口への誇らしさと！
- ・「しまくとうば」に琉球の文化があることを改めて感じる事ができるよい講演会でした。
- ・もっとハワイ語の成功例を取り上げてほしかった。
- ・しまくとうばはあたたかいことばだなあと思いました。失くしてはならないと思うので私も少しずつ勉強して使っていきたいと思えます。素晴らしい皆様今後とも頑張ってくださいませ。日本語では表現できない言いまわしがあるように思えます。
- ・すべてがとても良かった。小学校で働いています。まずは教室で歌を歌おうかなーと。沖縄の歌。（実は先日「じんじん」は歌いました。子供達喜んで歌ってくれました。）あとは多様性を受け入れる器、心を育てたいなど。多文化共生の世の中をぜひ。ふるさとの文化と言葉を大切にできる人を、、、。鈴木先生の沖縄の「あきさがし」の話、いたみいますすぐ改善!!教育環境を見直してみます!!そして、校長先生に相談してすぐに考えます！ デニーさんのお話が素晴らしすぎた まずは耳なれーしていきます！素晴らしい!!とってもよかった!!
- ・うちなーぐちの市民講座をぜひ芸大として開催してほしいです。（有料でOK）。ニーズは多いと思えます。学びたいです。
- ・ハワイのウチナーグチスタディーグループのYouTubeのようにYouTubeやTikTok、楽しくウチナーグチに触れるチャンネルを創設してほしいです。
- ・今日の講演会は最高に良かったです。あらためて、「しまくとうば」の大切さと幼児から伝えることの大切さを痛感しました。沖縄で幼児から「しまくとうば」に興味関心を持って受け入れる子供達を育てていきたいと思えました。聖田先生の講演会は最高で素晴らしかったです!!ハワイのようにアイデンティティーを強く持つうちなーんちゅを育てていきます。ありがとうございました。
- ・とても楽しくワクワクした気持ちで聞けました。しまくとうばをつないでいく方法をもっといろいろ知りたいと思えました。ハワイでの取り組みや実践ももっと知りたいです。
- ・大変素晴らしい卒業講演会でした。ハワイと沖縄の類似点ハワイの原語、沖縄のしまくとうば、次世代に継ぎ、文化、芸能沖縄独特の最高な宝をすたれない様に全県民が共有して発信していかなければならないと切に思いました。
- ・神谷武史先生の行政の取り組み方法を県に推進してほしい。高山朝光のウチナー口に誇りと自信を持つことの大切さは琉球人の尊厳を守る事につながる事だと思えます。“言葉と文化は一体”の格言が胸に響きました。
- ・どんな人が、誰が動けば行政は聞いてくれるのだろうか？ 皆さんと同じ気持ちですが、それなりの人が旗を建てて教育の現場での実現をお願いしたい。ついていきます！
- ・講演会は今後とも推進して欲しい。

- ・高山朝光先生の共通言語的発想大いに賛同します。ぜひ進めて下さい。
- ・しまくとぅばを改めて沖縄の文化の一つとして大事に育てていかないといけないと思いました。やはり教育現場の中でプログラムを作る。その為には行政の力が必要だと感じます。うちなーんちゅとしての誇りを持つ手立てですね。“アチコーコー”大好きな言葉です。聖田先生が沖縄の基地や水の問題を話された言葉に詰まる思いが私自身も涙が出ました。
- ・初めて聖田京子先生の話の話を聞きました。とても苦勞され努力をして来た先生、ゆっくりと話されとても勉強になりました。ありがとうございました。 県知事玉城デニーさんのウチナー口あいさつ立派でした。
- ・楽しく学ばせていただきました。第三部は色々な意見があっっておもしろかったです。
- ・講話は興味があつたが、少し間延びしていると感じた。実践のビデオ紹介は面白かった。ってうか、ほとんど使われてなかったし。デニーさん上手だった。神谷先生が役所で働いていたことが、琉球芸能にどれほど重要なことだったのかはじめて理解できました。沖縄のみさなんの県民性として琉球諸語の共通語は受け入れられるものではないのでは？ おそらく現在使われている日本語とは違う「うちなーやまとぐち」になるのでしょうか。
- ・沖縄の共通語を作ることには、慎重であるべきだと思います。各地域で使われていることばを日常的に自然な形で使うようにしていけば良いのではないのでしょうか 学校教育の中に島くとぅばを共に沖縄の歴史文化についても取り入れていくべきだと思います。その為には文科省との協力(たたかい?)も必要になってくるのでしょうかね。がんば！ ちばらやーたい！
- ・聖田京子先生の貴重なお話大変ありがとうございました。各先生方のパネルディスカッションも大変良かったです。次回の芸大の催し期待しています。ありがとうございました。
- ・10代、20代だけのパネルディスカッションを聴きたい若い世代がしまくとぅばをどうおもっているのか聴きたい
- ・5本の指が協力し合っているいろんなことができるように、国や性や生まれもったもの、すべてをリスペクトし合いながら、人前でもウチナー口を話してみたり、相手の文化も吸収してみたり共に楽しんでいきたいです
- ・「しまくとぅば」テーマのシンポの前にはがっかりするのは、流暢な“日本語”での話ばかりでしまくとぅばはいつもあいさつ様式でがっかりします。今回も又しかり。もっと有効に“しまくとぅば”を話語にとり入れたプログラムが出来ないものかと思います。しまくとぅばのNative Speakerを自負していても話す場がないのも残念。「話せる場」を提供するのも推進活動に含めて欲しいものです。※デニー知事のいお話ししまくとぅば！で大満足でした。今日のピカイチ
- ・琉球舞踊では子供達が踊っているのをまじかで見られてよかったです。また、大学の生徒が歩き方を披露しており、特別講師の方の教え方や表現がとてもわかりやすいと感じました。沖縄の文化を身近に感じる事ができてよかったです。そして第3部では、みなさんの話を聞くことができ、ウチナー口の共通話をつくることや、ウチナー口にほこりをもつこと、また行政からかえていき、学校教育に取り入れていくことが大切だと感じました。
- ・今回のイベントでの参加初めてである。すばらしかった。ぜひ続けてほしい。
- ・ハワイからも沖縄のことが気になりウチナー口(首里、那覇)のことばを中心に教育して欲しいと、、、話者がいる間に考えてほしい。
- ・「口説」の活用、応用を工夫ください。
- ・首里系芸能として組踊(首里系の)実践の紹介をプログラムに組み入れられないか？ 検討して欲しい。(YouTube? 紹介があると聞いているが、)
- ・シンポジウムは時間が足りないくらい盛り上がっていたし、しまくとぅばの普及、継承の課題はたくさんある。どれを優先して取り組むべきか肝要ではないかなあー
- ・今回は素晴らしい企画、いっぺーにふえーでーびる 多くの人が興味持って集まってこの内容を共有しよかったです。共通語をつくるのは今やることではないと思います。話者もいるの

でそれぞれのしまくとうばをそれぞれが使っていく環境づくり、学ぶ環境づくりが必要かと思
います。共通語の話は、北部や他の島の人たちからするとワジワジ～するハナシじゃないかな
と思います。シマクトゥバウチナー口の実践引き続きはまていちゃびらな!! 神谷さんの教育/
文化行政のお話もっと聞きたいです。これをテーマにもっと学びたく思います!

- 4について、広く県民に還元して欲しい。特に学校現場において普及活動をして欲しい。
聞こえ難いところあり、マイクの工夫を。小中高校で年に3～4回出前講座を企画したらど
うでしょうか?
- 神谷武史先生の話は大変興味深かった。教育現場に取り入れているのはうらやましいと思
いました。
- しまくとうばというよりウチナーグチと言う表記が好きです。しまくとうばの言葉の使い
方はやめてウチナーグチ(共通語)として使いたい。高山先生、神谷武史の言葉が現実になります
ように。玉城デニー知事さんの参加も感謝です。
- 高山氏の提案に賛成だけど文科省はダメ。沖縄独自単独で。市町村の教育委員、議員選
びが
いかに大切か! カルト自公ではダメ。
- 「しまくとうばを継承する」から「しまくとうばで継承する」へ進んでいると思
います。(両方
もちろん大切ですが) 芸大の取り組み大切だと思います。ただ首里言葉中心なので、島々の
言葉を継承する(なくさない)ようにするには別の手立てが必要。「方言は、はごー」が「う
ちなー
ぐち(首里言葉)は上等だけど、〇〇言葉は、はごー」になってしまっています。(他者ぬく
とう
ば、わちゃくする人、ちゃーすがやー。) (差別する人) 克服への道は遠いけど
その問題から目をそらさず歩みたい。大切なのは、日本語であれ、琉球語であれ、自
分の考
えを持ち表現することだと思います。(偽装ではなく) ※デニー知事、あんち しまく
とう
ばの
上手やる! かんげーん上等!
- 是非共通語として「沖縄語」を! 神谷さん県議で活躍してください。

(当日配布の質問シート) Q.本公演につきまして御意見、御感想、御質問などございましたら
お聞かせください。尚、第3部の質問などを紹介させていただきますので、第2部終了まで
にお近くのスタッフまでこの用紙をお渡しください。

47件の回答

- 歩みはわかりますが、自分の紹介が多い。
- 沖縄語が国際的に活用されていることに感動いたしました“命ど宝”の精神を広めるきっかけ
になればと思いました。
- 県がせめて教育委員と同じ方針で小学校への段階から取り組みお願い致します。
教育の中での実践大学での取り組みは素晴らしいと思いました。もっと幼い頃から保育園や小
学校の教育の中で取り組めないのだろうか、、と思います。県で取り組んで欲しいと思
います。
- 高山先生の話に感動した。沖縄ぐちとしまくとうばの違いに詳しく新聞に投稿して欲しい。
今、問題になっているカタカナ表記法も「漢字まじりのひらがな」で出来ることを願っている。
- 沖縄口ぬ根性で素晴らしい人生の話に感動しました。宇良恵子さんの放送の話、沖縄のニュー
ス等とても良かったです。聖田京子先生、健康に留意して御活躍下さい。沖縄の文化功
労に感謝!
- とても勉強になりました。どうやったら、もっとこの沖縄語のおもしろさ大切さを周りに伝
えていけるか自分にできることを考えてやってみたいと思いました。
- 沖縄らしいと思った。講演でした。10月に秋を探そうの話とか多様性を尊重して共通語をつ
くろうとか、サイコー! とてもおもしろかったです。

- ・言葉は文化ですぐ自己紹介は(知事を見習って)島言葉でやるべきことだったので沖縄口を統一する(首里・那覇語に)することは離島(八重山、宮古、与那国、国頭)の文化を尊重しない、離島の文化をなくすことです。大変なことですが、あらゆる地方の言葉を大事にする統一すべきではない。
- ・小中学校の朝の読み聞かせボランティアでしまくとぅばにこだわり本を探しています。初めての人にももっとわかりやすく、興味を引く話は何だろう！
- ・高山先生の共通化に大賛成です。これができなければ喪失するのは必要です。ウチナー諸語(ぐち)万歳
- ・鈴木先生が「方言」とおっしゃっていたのが気になったのですが、日本の一地方の「方言」とは違うと思っていますが、芸大の認識はどうでしょうか？「しまくとぅば」より琉球諸語の方が独立言語として(離島も含む)習う方も誇りを持っていけると思います。「しまくとぅば」では扱いが軽いと思います。同化教育で大切な宝を失ったと残念に思う。
- ・単位取得を目的としない一般市民にも受講できる道を開いていただくことはできませんか？市井のカルチャースクールではしまくとぅば講座はもうからないという理由で閉校になっている(ウェルカルチャースクール、桜坂市民大学、他)語学の履修には体系的で継続した学習を人と人が相対する形式であることが必要と思われれます。しまくとぅばを学びたいと強く希望しております。
- ・「いちちぬ いーべー いぬ丈ー ねーらん」沖縄の文化や伝統・権利が守り手に県外・国外出身者が入ることはどう思われますか
- ・とても素晴らしい企画だと思います。会場も多くの人がいて、うちなーぐちを次世代につなぐことへの関心の高さをすることができました。有り難うございます。
- ・言葉の韻律がそのまま動作に直結している事が理解できました。格調高い芸能や民衆の歌舞音曲がもっと若い人達に手軽に触れる機会をもっと作って欲しいです。ウチナーグチ学校の授業に導入して欲しいです。
- ・しまくとぅばが消滅危機にあると改めてびっくりしました。これからの将来の若い人達にしまくとぅばが伝えていくように私も活動していきたいです。
- ・しまくとぅばはユネスコが指摘する危機を脱していないとありますが、現状の取り組みの足りない点と危機を脱するために必要な措置は何か、コメントをお願い致します。
- ・うちなーぐちに触れる機会を増やすという意味で、理系科目をうちなーぐちで教えることもした方が良くと思いますが、そのような取り組みはどのようなものがされているのでしょうか？
- ・プログラムしまくとぅばプロジェクトの実践、素晴らしいと思います。学んだ学生の教育実習など小中高で授業してもらい、ゆくゆくは授業科目として深まっていくといいなと思いますが、現状はどうでしょうか？(どんな段階)
- ・うちなーぐちを文章で表す表記法について(特に漢字)何かで定められたものがあるのか？決まりとか？例:「チュラサン」→「清サン」？「美サン」？例:「ワラビ」→「童」？「子供」？
- ・ハワイにおいて、英語、ハワイ語、沖縄しまくとぅばのバランス感、住分けなどは上手くできていますか？
- ・100%店頭もインターネットでも「アンダーギー」なので、しまくとぅばを重視しても(いろいろ言葉があるが)「アンダーギー」に統一して欲しい。
- ・ご講演ありがとうございました。京子先生のお話の中で、ハワイ大学での沖縄話・文化の授業のお話がありましたが、コースの目標の2つ目「沖縄文化における？考え方や価値観を理解する」といった内容がありましたが具体的にその考え方や価値観を教えるためにどういった取り組みをされていたか、お聞かせいただきたいです。ゆたさるぐとう うにげーさびら。
- ・琉球諸語は300の島言葉があります。沖縄本島の私には宮古、八重山の言葉がわかりません。そのために沖縄全体で通用する島言葉をどのように選定するか難しいです。ハワイでもハワイ

語は地域性があると思います。ハワイ語の一つのハワイ記にまとめハワイ語の公用語はどのような流れになったか興味あります。ハワイ手話も保存に取り組んできたと聞いています。その流れについても教えてほしいです。

- ヤンバルの田ブックワーで生まれたウチナーのオバーが日本の大学を通信教育で探し、その後ハワイ大学に進学、博士号まで取って非常に立派だと思えます。その間には人に言えない苦勞がたくさんあったと思いますが、どうやってたどりついたのでしょうか？
- 沖縄県の方言を「ウチナーグチ」として県内の宮古・八重山の地域の方言を「シマクトゥバ」とした場合、ハワイ語にも「シマクトゥバ」はありますか？
- 聖田先生 長いことありがとうございます。今後とも御活躍下さい。先生のまかれた種は成長していていると思えます。
- 「プロジェクト」について・「口説」の学校教育などにおける可能性を感じました。ラップ風にも仕立て直すと面白いですね。・舞の指導におけるウチナーグチも新鮮でした。日常語としても使えるのでは。
- 鈴木先生によるプログラム紹介から、比嘉先生と宮城先生の実演がとてもおもしろく琉球芸のを学ぶ際にうちなーぐち、しまくとぅばで学ぶことの意義をすんなり理解できた。芸能・文化としまくとぅば(言語)からスタートし、言語としてしまくとぅばを学べるプログラムに今後発展させたいとのことだが、とても期待している。
- 聖田京子先生の貴重な講演会は私自身の今後の生き方に参考になりました。
- しまくとぅば＝固有原語（日本語の一方言ではない！）という認識を共通のものとする取り組みがしまくとぅばの継承発展の基礎となると考えます。その意味から「方言」という表現は大きな障害になっていると日頃感じていますが、いかがなものでしょうか？「方言」撲滅の取り組み、実践例などあれば、、
- 40年間の研究生活をコンパクトに語られていたが、結婚、出産をして、博士課程まで終えられたことは筆舌に尽くし苦勞があったと推察されます。ハワイにおける沖縄語の発展、継承のパイオニアに拍手を送ります。
- 大変貴重お話をありがとうございます。聖田京子先生献身的な取り組みに感銘を受けました。さらにハワイにいるウチナー系の強い沖縄に対する想い、すぐに行動に移せる力があるということに実感しました。このような強い想い、行動力がある人は、ここ沖縄ではひとにぎりではないかと感じてしまいます。うちなー県民一人一人が今日から、明日からできることは何でしょうか？
- ハワイで幼児教育に「しまくとぅば」は取り入れられていますか？ 琉舞や三線等にもかかわっていない幼児(ウチナーンチュ)にも「しまくとぅば」を取り入れた授業等がありますか？
- 条例制定後ますます話せるものが低下。これは各間切の島くとぅばにこだわるから。高山朝光先生！芭蕉布の吉川先生、佐藤先生のウチナー口に統一しましょう。
- ハワイにおけるハワイ語の普及活動を教えてください。ウチナーグチ普及参考のため。
- 舞踊の先生はウチナー口を使っていたが司会はしまくとぅばと言っている。しまくとぅばは造語である。琉球諸語またはうちなーぐちにするべきである。
- 初めて来ましたが、大変良かったです。沖縄県として力を入れていくべき事業内容でした。
- ハワイ語の復興に保育、小中高大、への導入し(＝公募前)沖縄では地域別の言語の復興に重点されている(＝社会教育)結果、県民全体には普及せず、普及者が激減している 沖縄もハワイのように公教育へシフトすべきと考えている。ハワイも島嶼の地域で沖縄も同じで各島には独自の地域語があると考えますが、ハワイでは 8つの島の言語をどのようにして「ハワイ語」として統一したのでしょうか？(反対はどのように対応したのでしょうか？)
- (大変申し訳ないですが、別件で早退しています。もしお話していただければ幸いです) 聴覚障害をもつ知人がおり、沖縄を題材にした映画

や舞台が大好きなのですが、日本語訳の字幕のみが出ていますので「沖縄の字幕もほしい」と申しております。(少し聴覚が残っていて「是非きいて理解してみたい」)正書法の問題、字数制限の問題もあると思うのですが、沖縄文化をいろいろな方へ幅広く伝える方法として「できそうなこと」があれば、御提言を賜りたいです。(ハワイの例でも何かあれば情報共有をお願いします。このような取り組みはアメリカではとても盛んだと聞いたことがあります。聖田先生、私は那覇高の後輩になります。よろしくをお願いします。

- ・ハワイ現地の日常会話でしまくとぅばを使う場面はどのようなかたちでありますか？ 貴重な御講演ありがとうございました。
- ・最近県庁に「しまくとぅば推進事業担当課？」が設置されてきたようですが、貴大学の「しまくとぅば実践教育事業」との連携や幼・小・中・高校での必修科目化への展望を伺いたい。
- ・70代、一応ウチナーグチで生活の中で使う世代ですが、現在のしまくとぅばには違和感があります。農民口説は四季毛作りとあります。毛とは原っぱの事です。大和口の二毛作と違い畑にはハルというのが正しいと思います。
- ・しまくとぅばの実践教育について、芸能としてのしまくとぅばは必要に思います。是非必要です。ただし、ことばは表現であり、その本質は何かということは別に研究が必要だと思いますが、、、、どうでしょうか？
- ・多様性を認めるなら無理に共通語を作るより各地の文化活動の中で幼少時から取り入れる方が沖縄口を定着させるには良いお思います。
- ・聖田京子先生、いっぺーにふえーでーびる ハワイ東京センターやハワイ大学の沖縄関係のセッションではYouTubeなどによる沖縄語の発信を行っているのでしょうか もし、発信をしているのであれば検索エンジンでどのような単語を入力すれば見ることができるのでしょうか。この機会にパソコンやスマホで観て学習を深めていければと思っています。(もちろん子や孫達と共に)それらを通して沖縄語、芸能が理解できれば地域の芸能復活や歴史の理解も深まるのではないかと思います。

5 「誇らしゃしまくとぅば」講演会概要

本事業では令和3年度に「首里系組踊」の勉強会を行った。そこでは、首里の土族たちが伝承してきた組踊稽古の方法を学び、かつ勉強会の中では首里くとぅばを用いてすべてを行う、というものであった。本講演では、首里系の芸能伝承者の一人である、金武良章氏の高弟の知念績有氏、仲宗根良江氏をお招きして、良章師匠の教えを「語り」で学び、また、首里系の組踊の唱え、所作、演出、さらに古典舞踊の中から女踊りと二歳踊りをワークショップ形式で学ぶものである。

5-1 第13回座談会「金武良章を語る」概要

第13回 芸能から受け継ぐ「誇らしゃしまくとぅば」

開催日：令和5年9月26日(火) 16時～18時

会場：国立劇場おきなわ 大稽古室

講師：知念績有氏・仲宗根良江氏(聞き手：鈴木耕太・嵩原盛朗氏)

演題：「金武良章を語る」

講師略歴

知念績有(ちねん せきゆう)

1937年那覇市出身。琉球古典芸能首里系組踊研究家。

1967年 金武良章琉球芸能研究所入門。1968年 名渡山ホールでの「日曜鑑賞会」にて「手水の

縁」の門番役で初舞台。同年「大川敵討」の母役も務めた。1971年 琉球政府文化財保護委員会の伝承者公演にて「二童敵討」供(二)を務める。そのほか金武良章琉球芸能研究所主催の「組踊の夕」などの舞台に出演。1991年「首里伝統芸能文化協会」を立ち上げ。1994年「首里組踊の会」を立ち上げ。現在は、首里公民館で首里系古典芸能の研究や、組踊台本を首里系の唱えをとおして鑑賞する会の講師として活躍している。

仲宗根良江 (なかそね よしえ)

1950年 ハワイ出身日系三世。祖父母は沖縄市越来出身。

舞踊歴66年 教師歴46年

1973年 金武良章に師事(1993年まで)。1975年 琉球新報芸能コンクール最高賞受賞。

1977年 教師免許取得、金武良章琉球芸能研究所ハワイ支部にて指導を始める。

1995年 ハワイ大学マノア校アウトリーチカレッジ文化普及プログラムを担当(現在まで)。ハワイ州文化芸術財団のパネリストをはじめハワイ州および全米各地や日本で公演活動およびワークショップを行っている。



座談会 「金武良章を語る」

日時 令和5年9月26日(火) 午後4時～6時
 会場 国立劇場おきなわ大稽古室
 講師 仲宗根良江 知念績有
 定員 50名(事前申し込み下記参照) ※定員に達し次第終了

ワークショップ 組踊「花売の縁」 舞踊「かせかけ」「上り口説」

日程 令和5年9月27日(水)
 28日(木)
 29日(金)
 会場 沖縄県立芸術大学 音楽棟4階 琉芸大合奏室
 内容 組踊 午前10時30分～12時30分
 舞踊 午後2時～4時
 定員 各10名(経験不問、事前に下記より申し込みが必要)
※参加者は長稽古着(半稽古着可)、足袋、扇子2本、かせわくをお持ちの方は持参ください。
 ※なるべく3日間参加できる事が望ましいです。

申し込み 右記QRコードから
※もしくは下記問い合わせから受付します



主催 沖縄県立芸術大学

問い合わせ 沖縄県立芸術大学芸術文化研究所
 Tel098-882-5615 (平日9時～17時)

第13回 講演会

沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育プログラム開発事業
 芸能から受け継ぐ「誇らしやしまくとぅば」

2003年 ハワイ大学マノア校教員「Okinawan dance」を担当（2012年まで）。2006年ウチナーンチュ大会「組踊の夕べ」出演（2011年2016年にも参加）。

2015年 国立劇場おきなわにて自主公演「ハワイからの風」を開催、組踊「花売りの縁」、舞踊「昔蝶節」「伊計離節」に出演。現在はホノルル及びマウイにて後進の指導にあたる他、仁風会USA教師がハワイ島ヒロやニューヨークで指導を行っている。

5-2 ワークショップ：組踊「花売りの縁」・舞踊「かせかけ」「上り口説」概要

講師：知念積有氏・仲宗根良江氏

開催日：令和5年9月27日(水) 28日(木) 29日(金)

会場：沖縄県立芸術大学 音楽棟 4階 琉芸大合奏室

内容：金武良章の技と思考を学ぶ

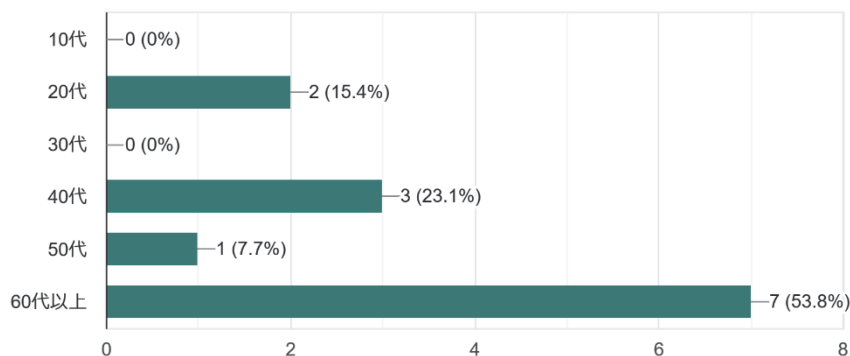
組踊：午前10時30分～12時30分

舞踊：午後2時～4時

5-3 第13回 誇らしやしまくとぅば講演会 座談会・ワークショップアンケート結果 ・座談会アンケート

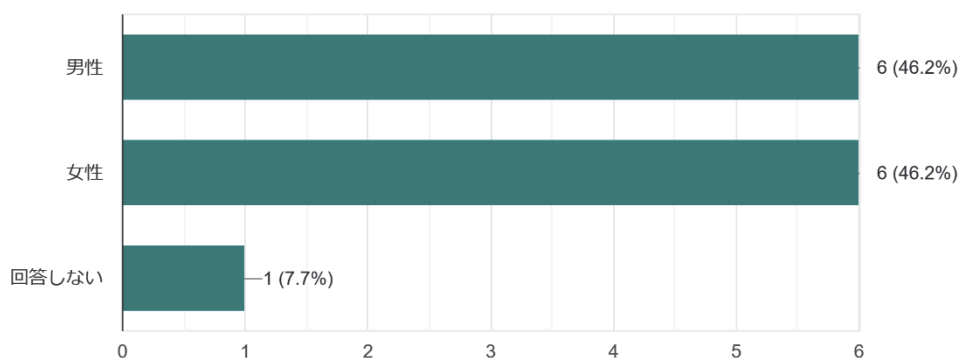
(1) 年齢

13件の回答



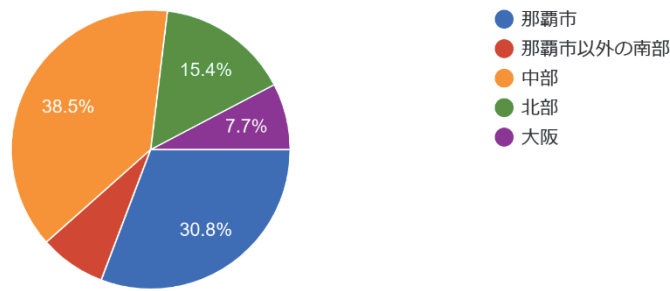
(2) 性別

13件の回答



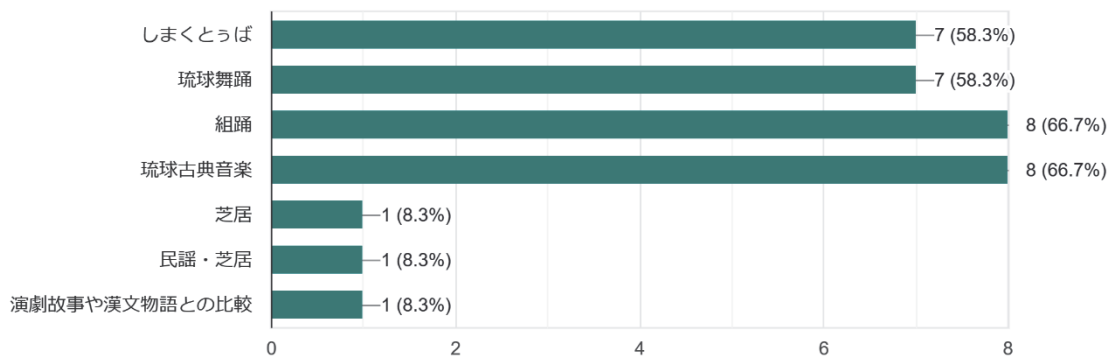
(3) お住いの地域

13件の回答



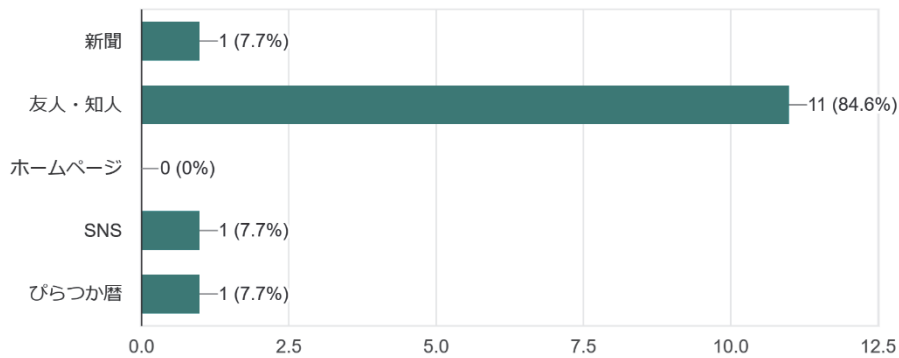
(4) 興味ある内容

12件の回答



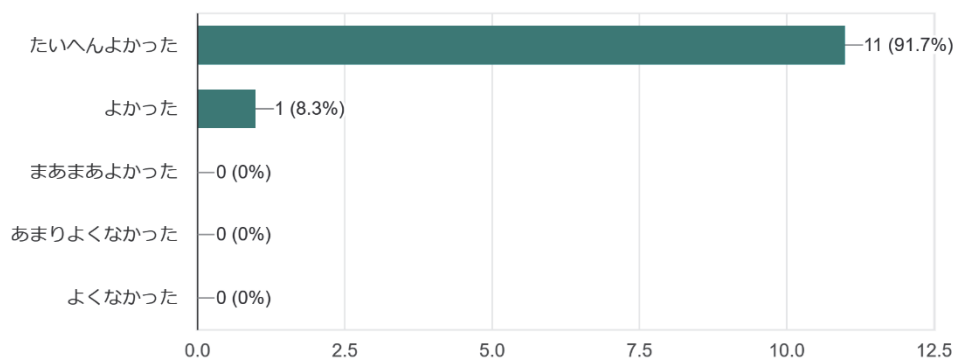
(5) このイベントをどのように知りましたか？

13件の回答



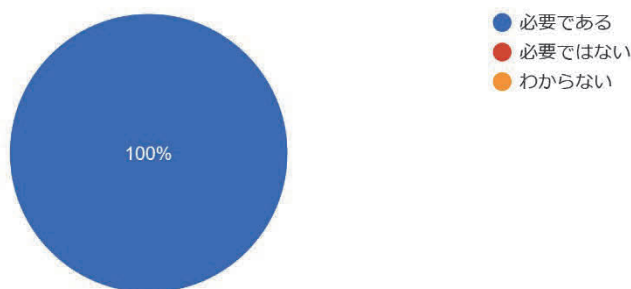
(6) 座談会「金武良章を語る」はいかがでしたか？

12件の回答



(7)本学の琉球芸能専攻におけるしまくとぅば実践教育事業についてどのようにお考えでしょうか？

13件の回答



(8) 本事業及び今回の座談会・ワークショップについての御意見や御感想(今後の講演会に出演してほしい人)などがありましたらお書きください。

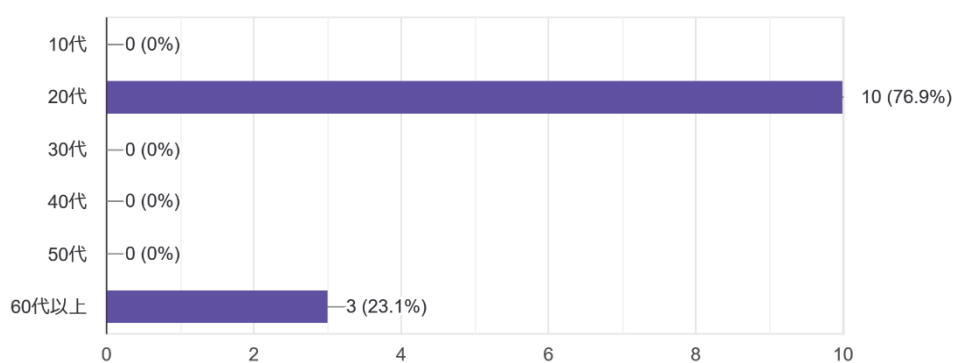
10件の回答

- また機会があれば参加したいと思います。しまくとぅばは地域によっていろいろ違うとききます。みんなに広めるのは難しいのかしらと感じます。
- 沖縄の音楽や舞踊を残しておきたい大切なものだと思う。その為にも実践できる場所や環境が必要だと思う。
- 素晴らしい、首里形が少し理解できました。金武良章を語る方から直接お話を聞く機会は意義深いと思います。感謝。このような機会を増やして草樽と参加したいと思います。
- 多くの地域で様々な工夫凝らした「沖縄口」の普及活動が行われています。芸大もそのもてるノウハウを生かした取り組みであり重要と思います。県内のしまくとぅばを次世代に残し継承していくためにどのような取り組みが必要なのか。現在の取り組みの現状はどうか。などの内容の講演やシンポジウムなどがあれば良いと思う。金武先生の教え是非皆で残していく努力をしたいと思います。
- 金武先生の人とのつながりがよくわかった。
- 金武先生を直接よく知っておられる方々のお話を聞くことができ、とても良かったです。背もたれのなしの丸椅子で2時間は少ししんどかったです。
- 昔忘れてはいけない言葉、そしてそれを伴う芸能は是非残して欲しい。その事業の一つとして大切だと思います。
- 大変貴重なお話をありがとうございました。
- 首里系と他の違いなど分かり良かったです。せんそうが無かったらもっとすばらしい琉球芸能があったらと思うました。
- 首里系と商業演劇系の唱えの違いについての件は興味深い。

・ワークショップ(組踊 琉球舞踊) アンケート

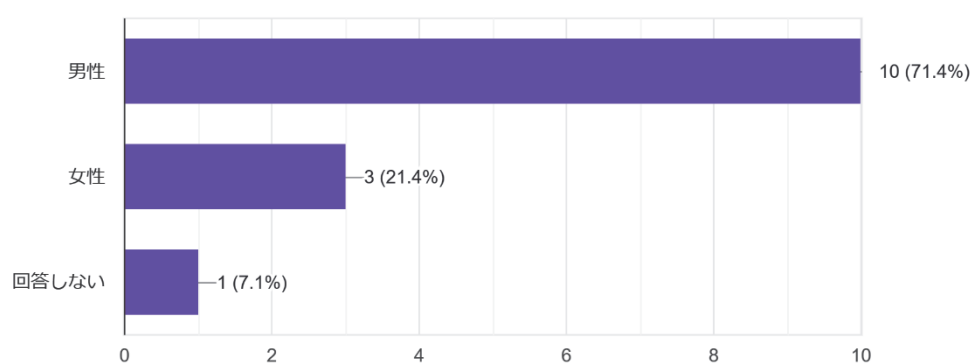
(1) 年齢

13件の回答



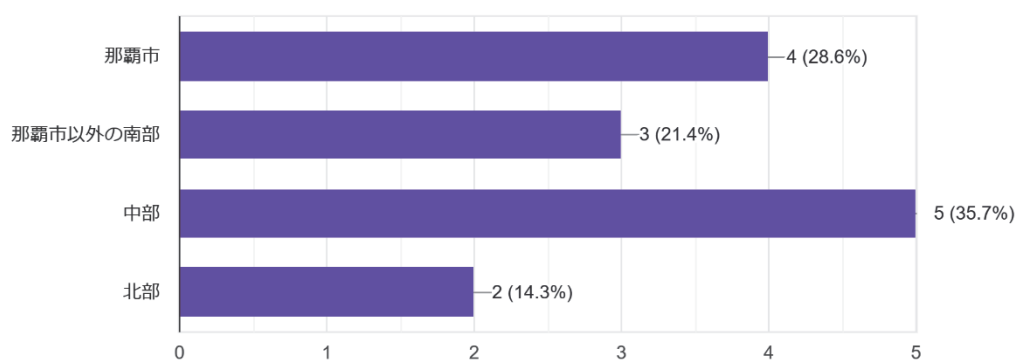
(2) 性別

14件の回答



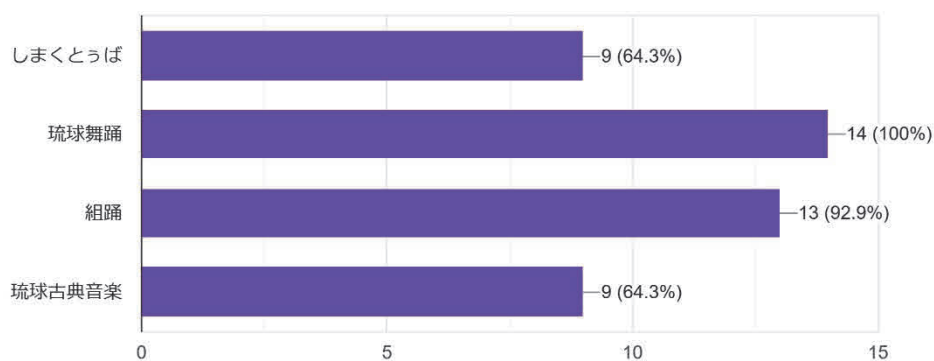
(3) お住まいの地域

14件の回答



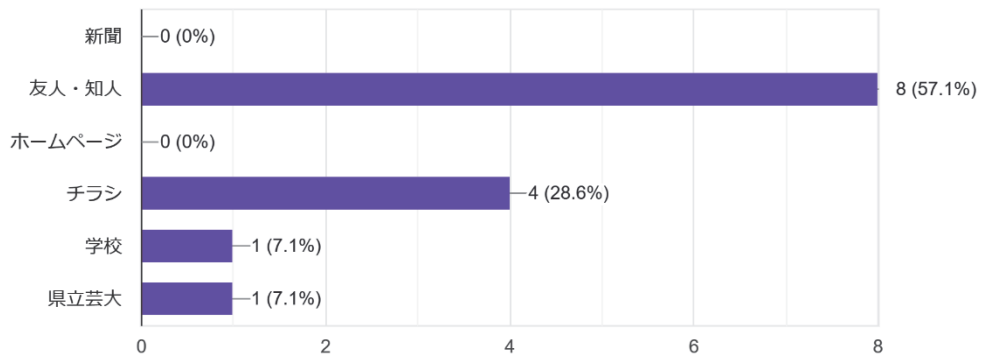
(4) 興味のある内容

14件の回答



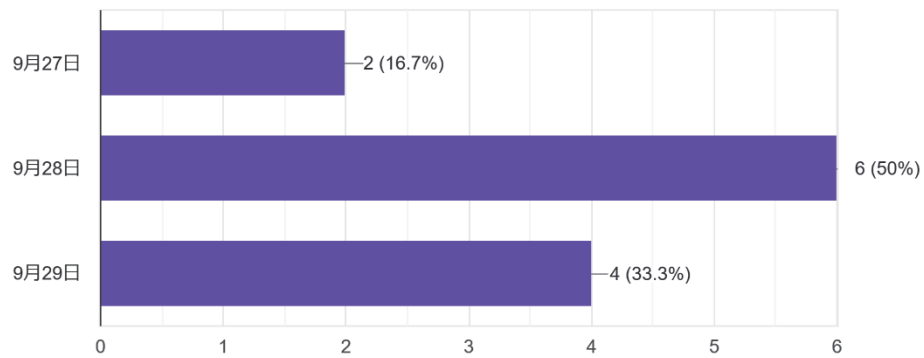
(5) このイベントをどのように知りましたか？

14件の回答



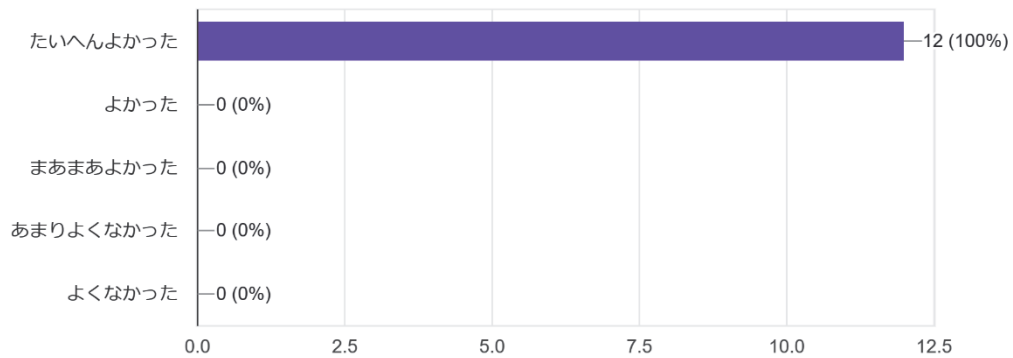
(6) 参加した組踊ワークショップの日付をお答えください。

12件の回答



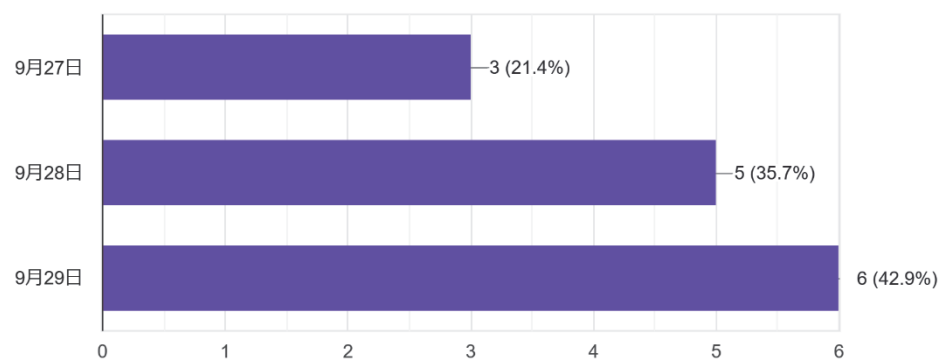
(7) 組踊ワークショップ参加の方へお聞きします。参加した組踊ワークショップはいかがでしたか？

12件の回答



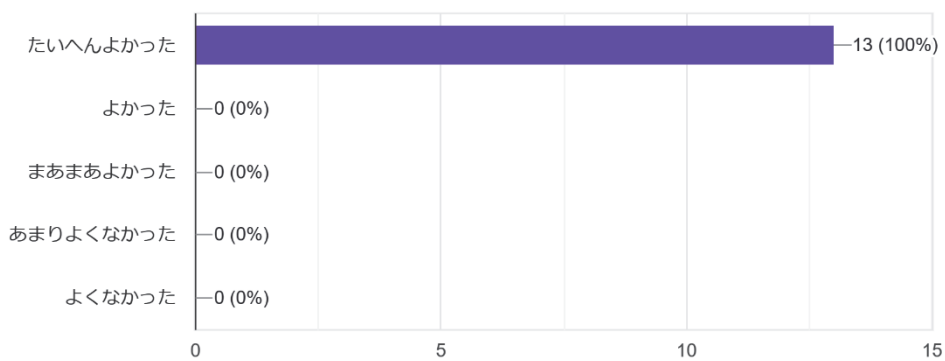
(8) 参加した琉球舞踊ワークショップの日付をお答えください。

14件の回答



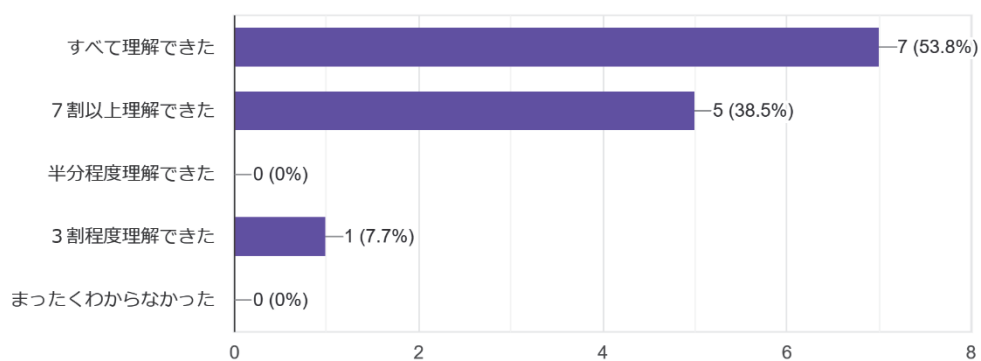
(9)参加した琉球舞踊ワークショップはいかがでしたか？

13件の回答



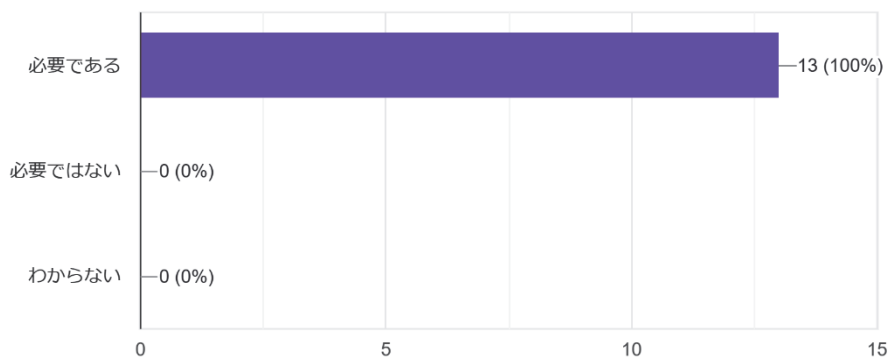
(10) 今回使用されたしまくとぅばをどの程度理解できましたか？

13件の回答



(11)本学の琉球芸能専攻におけるしまくとぅば実践教育事業についてどのようにお考えでしょうか？

13件の回答



(12) 本事業および今回の座談会・ワークショップについてのご意見や感想(今後の講演会に出演してほしい人)などがありましたらお書きください。

7件の回答

- ・地域でしまくとぅばの指導をしている方々をまねいてのミニ講座をもおもしろいかもしいない。沖縄口ニュースの(TV)方など
- ・三日間あるのは、とても充実して学べるし、先生方と三日間会えることが嬉しいです。
- ・歩みなしで現在と違った箇所が多かった。
- ・組踊では全て方言で話されていて、理解出来たので、このような機会をもっと増やして欲しいです。舞踊は正面から先生の踊りを見てみたいです。
- ・組踊で使った台本が先生と違ったので、一緒のものを見ながらやりたかったです。次は組踊と舞踊別で三日間ずつやりたいです。
- ・また今日のような事業を行っていただきたいです。
- ・貴重な機会ありがとうございました。

6 次年度への展望

今年度からようやく新型コロナウイルスに対する対策も緩和された。本事業としては、5月に開催する運びとなった「聖田京子講演会 しまくとぅばを次世代へつなぐ～ハワイ・沖縄の事例を通して～」が本学主催イベントにおける、有観客でのイベント復帰第1号となった。この講演会は開催家各時点において無観客開催という事で進めていたが、鈴木が代表して波多野学長への開催報告を行ったところ、「せひ通常通りの開催で」と背中を押され、有観客での開催となったのである。ハワイでは多くの知見を頂いた聖田先生をお招きしての講演、そして本学の「しまくとぅば実践教育プログラム開発事業」、ハワイでのしまくとぅばの活動を県民へ伝えられただけでなく、アンケートからは事業に対して多くの好意的な意見を頂く結果となった。

そして今年度はこれまで「講演会」として開催してきた「誇らしゃ しまくとぅば講演会」をハワイから仲宗根良江氏を招聘して「ワークショップ×座談会」という形式で開催した。これまでの講演会とは少し異なり、「金武良章を語る」というテーマのもとに、金武良章の技芸や、残した言葉(しまくとぅば)をお弟子さんや関係者に語ってもらい、さらにワークショップで琉球舞踊・組踊を体験する、という企画である。「しまくとぅば」を身体で学ぶという新たな企画となったが、座談会を聴いてワークショップに参加することで「ことば」と動きとの繋がりを参加者に分かりやすく伝える事ができたと感じている。

しかし、コロナ以前の日常が帰ってきたといっても、すべてが元のまま、ということにはならなかった。これまで報告書には前年度開催された「誇らしゃ しまくとぅば講演会」の講演録をテキストデータで紹介していたが、今年度から掲載を見送ることになってしまった。理由としてはこれまで講演を文字起こししてくださっていた平良徹也氏、そして昨年度文字起こししてくれた城間瑞生さんのそれぞれの業務のため、本事業の文字起こしを手伝い事ができないということになってしまったのである。非常に残念であるが、文字起こし、テキストデータの公開は今後、時期を見て資料としてまとめて公開したいと思う。

コロナ以前に「戻った」感のある年度だったが、現状は確実にコロナ以前ではなく、さらに変化していると感じずにはいられない。これからはコロナ以前に戻すのではなく、これまでの慎重な活動も時と状況を踏まえてうまく使って、本事業を展開していきたい。

(文責：鈴木耕太)

ていーち! Teach!!



19

新しい年度が始まりました。新しいクラスでの自己紹介、しまくとぅばでやったらみんなびっくりするでしょうね。今回は、鈴木耕太さんの自己紹介からスタートです。何と言っているのか、分かるかな？
(第2週に掲載)

あなた ここち みりよく
温かさ、心地よさが魅力

鈴木 耕太 (沖縄県立芸術大学准教授)

ぐすーい、ちゅうがなびら。わんねー、沖縄県立芸術大学ぬ鈴木耕太とーいびーん。みーしつちよーてい うたみせーびり。わんねー、②のーじょー「鈴木」などーいびーしが、うまり、すだちや、読谷山やいびーん。あんした、大学うとーてい、組踊ぬ勉強そーいびーん。組踊、歌三線、琉球芸能、好ちよーいびーん。くぬ「ていーち! Teach!!」んかい、芸能と「しまくとぅば」にちーてい、④ゆんたくさびら、んでいせー④うむとーいびーん。⑤ゆたさるぐとぅ、うにげーうんぬきやびら。

さて、新学期がスタートしました。今回は私の自己紹介を「しまくとぅば」で書いてみました。いかがでしょうか。難しく感じるかもしれませんが、始めは「私は〇〇です(わんねー〇〇などーいびーん)」という短い文章から使ってみて、その後「〇〇をしています(〇〇そーいびーん)」や「〇〇が好きです(〇〇好ちよーいびーん)」など追加していくと、長い文章の自己紹介をすることができるようになります。最後に「よろしくお願ひします(ゆたさるぐとぅ、うにげーさびら)」で締めくくるとバッチリです。

うつく ひょうげん
美しい表現いっぱい

私は読谷村の出身ですが、顔や名前がある意味「ぶつ」の日本人です。なので、「しまくとぅば」を使うとビックリされることがあります。私の小学生時代は、今のように「しまくとぅば」を残そう! というよりは、むしろ逆に「キレイな日本語を使いましょう」というような様子でした。ですので、しまくとぅばを使うと「はごーさぬ、方言使らんけー(汚い言葉は使うな)」と近所の大人たちに「しまくとぅば」でしかられました(笑)。ですが、大学に進んで、沖縄の文化を学ぶうちに、「しまくとぅば」は「汚い言葉」ではない、ということに気づきはじめました。

★最初の自己紹介の内容
皆さまごきげんいかがでしょうか。私は、沖縄県立芸術大学の鈴木耕太と申します。どうぞお見知りおきください。
私の名字は「鈴木」といいますが、生まれ、



イラスト サイトウカナエ (イラスト沖縄)

挑戦しよう! 文中の1~5の番号がついたしまくとぅばの意味が分かるかな?

五つ全部分かった!	三つ分かった
うしゅがなし レベル ★★★★★	ペーちゃん レベル ★★★
四つ分かったよ!	二つ分かった
うえーかた レベル ★★★★★	さどぬし レベル ★★
	一つだけ分かった
	にや レベル ★

もちろん、どんな言葉でも人をのしる言葉は「汚い言葉」ですので、日本語でもそれこそどの国の言葉にもあるものです。しかし、それは逆に、「しまくとぅば」には美しい表現もたくさんあります。そのような美しい表現は、日常会話だけでなく、歌や芸能の世界にまで広がっていて、その歌の歌詞を表現するために美しい踊りも生まれました。

身につけることできる

私は、昔から「しまくとぅば」を積極的に使

ってきたわけではありませんが、周りの大人たちが使う言葉を聞き、研究を続けることで自然と身につけてきました。これからの若い人たちも同じように「身につける」ことは難しくないと思います。私が思う「しまくとぅば」の一番の魅力は、話す言葉の持つイントネーションやリズムです。早口でまくしたてるのではなく、「しまくとぅば」にはゆったりとして温かい、心地よさがあると思っています。このようにいろいろな魅力を感じて、「しまくとぅば」を話す機会をつくっていきける社会になればと思っています。

答え
①私は ②名字は ③話す
④思います ⑤よろしく

ていーち! Teach!!



ハワイといえば、暖かくて観光業が盛ん。沖縄に似ていますね。ハワイには、沖縄出身者やその子孫が多く住んでいます。今回は、ハワイでのしまくとぅばを守る活動について紹介します。(第2週掲載)

とお遠くてもつながり強いハワイ

鈴木 耕太(沖縄県立芸術大学准教授)

沖縄県では今年から2031年(令和13年)にかけての9年間を、第2期の「しまくとぅば普及推進計画」と位置づけて、幼稚園から大学までの学校で「しまくとぅば」に触れる機会や学ぶ機会を増やそうと、これからさまざまな取り組みを行っていく予定です。

この記事を読んでいる小学生や中学生の皆さんの中にも、課外活動でしまくとぅばに関わる授業を受けた人がいるかもしれません。現在、沖縄県では56.3%の学校でしまくとぅばに触れる機会があると報告されていて、それらは、読み聞かせや給食でのあいさつ(くわっちーさびら、くわっちーさびたん、など)、国語の授業などでのしまくとぅばの活用といわれています。しまくとぅばに触れて学ぶ取り組みは沖縄だけで行われているわけではありません。遠く離れたハワイでも、しまくとぅばを学ぶワークショップが継続的に行われているのです。



イラスト サイトウカナエ(イラスト沖縄)

ルーツの文化 大切に

沖縄とハワイは、100年以上の交流の歴史があります。1900年に沖縄から初めての移民がハワイへ渡ると、それ以降、ほとんど途切れることなく人やモノの交流が続いています。ハワイには沖縄出身の方や、沖縄にルーツを持つ方が多く住んでいて、51年には「ハワイ沖縄連合会」という会員数が約4万人の大きな団体も組織されています。また、毎年9月には「オキナワン・フェスティバル」が開催されています。そこでは沖縄のエイサーや民謡、舞踊などの芸能だけでなく、沖縄料理などを紹介していて、参加者は沖縄の伝統文化や食文化を体験することができます。

そのようなハワイでは、沖縄の文化やしまくとぅば

問題 食事に関するしまくとぅばだよ。いくつ分かるかな?

- ①くわっちーさびら
- ②くわっちーさびたん
- ③あさばん
- ④ゆうばん
- ⑤あしー
- ⑥まどうめむん

左の問題いくつできたかな?

- 六つ分かった! ▶「うしゅがなし」レベル★★★★★
- 五つ分かった! ▶「うーかた」レベル★★★★
- 四つ分かった! ▶「ペーちん」レベル★★★
- 三つ分かった! ▶「ざとめし」レベル★★
- 二つだけ ▶「にや」レベル★

とぅばを学ぶワークショップを行っています。先日ワークショップを行ったハワイ大学名誉教授の聖田京子先生は沖縄の出身で、長くハワイ大学で教えておられました。学生たちに沖縄の文化(年中行事や伝統文化)とともに、しまくとぅばを教えていらっしゃいました。また、聖田先生はハワイ州公認の日本語ラジオ局「KZOO」でもしまくとぅばを紹介する番組パーソ

ナリティーを担当されていて、ハワイでしまくとぅばを広げる活動をなさっています。私たちの住む沖縄以外で、さまざまな人たちがしまくとぅばに触れる機会をつくり、そして広げているのです。沖縄にいる私たちももっと自分たちの言葉や文化に目を向けて、学んでいく機会を増やしていきましょう。

答え①いただきます ②ごちそうさまでした ③昼食 ④夕食 ⑤おやつ ⑥間食

2023年度沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育事業



琉球新報とりゅうPON! は、学校で5部以上同じ紙面を使う場合は、1部132円のところNIE(教育に新聞を) 価格の1部あたり40円で購入できます。

問い合わせ・申し込みは、琉球新報NIE推進室 ☎098(851)5190 nie@ryukyushimpo.co.jp

ていーち！ Teach !!



21

沖縄では旧暦に沿った行事が今も大切に受け継がれています。その中から小中学生の皆さんに関わりのある行事「ユツカヌヒー」について紹介します。(第2週掲載)

ユツカヌヒーって？

鈴木 耕太(沖縄県立芸術大学准教授)

沖縄には多くの伝統行事がありますが、若夏の時期に行われるのが「ハーリー(爬龍)」です。若夏とは沖縄で古くから使われている季節で旧暦4、5月、新暦では5、6月ごろの初夏の時期を指しています。ハーリーは、ちょうど若夏の時期の旧暦5月4日「ユツカヌヒー」に行われます。ハーリーと聞くと、那覇ハーリーをイメージしますが、那覇ハーリーは旧暦ではなく新暦5月4日のゴールデンウィークに行われています。

中国から伝来したとされるハーリーは船漕ぎ儀礼のことを指し、沖縄本島だけではなく離島など広い地域で行われています。船漕ぎ儀礼とあるように、ハーリーは海に面した地域で行われ、航海安全や豊漁を海の神様に祈願することが本来の目的で、海を生業とする地域や人々にとっては大切な行事となっています。また、海の安全だけではなく、船を漕ぎ合うことで人々の安寧を願う行事ともされています。那覇では装飾された大型の爬龍船が使用されますが、地域では伝統的な小型漁船「サバニ」が使用されます。数千人が船に乗り込み、「カノウチ(鐘を打つ)」のリズムに合わせて「エーク(権)」を漕いで競います。ハーリーは「御願ハーリー」と「本ハーリー」があり、「御願ハーリー」では敵かなハーリー歌を歌いながら祈願し、ゆっくりと漁港を周回します。それに対し、「本ハーリー」は一本勝負の競漕が繰り広げられます。その他、糸満や石垣などではレース途中でわざと船を転覆させる「クヌカセー」「チンケーラシ」「クヌカケグワー」といったダイナミックな競漕が行われます。

沖縄版こどもの日

さて、ハーリーが行われるユツカヌヒーは、子どもたちの健やかな成長を願う沖縄版・こどもの日でもあります。戦前までは、ユツカヌヒ



イラスト・サイトウカナエ(イラスト沖縄)

- 問題 以下は記事に出てきたしまくとぅばです。意味を答えましょう！
- ①ユツカヌヒー
 - ②ハーリー
 - ③カノウチ
 - ④エーク
 - ⑤ヒヌカン
 - ⑥ウヤファーフジ



左の問題いくつできたかな？

- 全部答えられた！▶「うしゅがなし」レベル★★★★★
- 五つ答えられた！▶「うえーかた」レベル★★★★
- 四つ答えられた！▶「べーちん」レベル★★★
- 三つ答えられた！▶「ざとぅぬし」レベル★★
- 二つ以下 ▶「にや」レベル★

ーになると子どもの成長を願ってごちそうやお菓子を仏壇やヒヌカン(火の神様)にお供えし、新しい玩具を買い与えるという風習がありました。お菓子は「ちんびん」と「ぼーぼー」で、「ちんびん」は小麦粉と水で溶いた生地(黒糖を少し混ぜてほんのりと茶色に焼き筒状に巻きます。それに対し、「ぼーぼー」は黒糖を入れず白く焼いた生地に「アンダースー(油味噌)」を塗って巻き込んでいきます。この2種類のお菓子ですが、「ちんびん」は「巻餅」、「ぼーぼー」は「炮炮」と書き中国から伝わたとされています。ユツカヌヒーに立ち並ぶ玩具市では、伝統的な琉球張り子の「ウッチリク

プサー」「チンチンウマグワー」「フトウキグワー」などの玩具が売られていました。現在では見られなくなった光景ですが、おもちゃ屋さんで自を輝かせている現在の子どもの姿と重なります。

このように旧暦5月4日はハーリーが行われるだけではなく、沖縄版こどもの日でもあります。旧暦のため平日の場合もありますが、ハーリーを見に行ったり、「ちんびん」や「ぼーぼー」をお供えし、「ウカミ(神様)」や「ウヤファーフジ(ご先祖様)」に成長祈願したりして、家族と語りながらユツカヌヒーを体験してみたいかがでしょうか。

2023年度沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育事業

毎週日曜日発行

新報小中学生新聞



琉球新報とりゅうPON! は、学校で5部以上同じ紙面を使う場合は、1部132円のところNIE(教育に新聞を) 価格の1部あたり40円で購入できます。

問い合わせ・申し込みは、琉球新報NIE推進室 ☎098(851)5190 nie@ryukyushimpo.co.jp

ていーち! Teach!!



22

「沖縄の夏」と言えば思い浮かぶうちのひとつ、エイサー。エイサーは旧盆に披露されますね。今月は、旧盆の伝統芸能について紹介しますよ。自分が住む地域、いろんな地域の伝統行事を見て、調べてみると面白いかも！ (第2週掲載)

旧盆と伝統芸能

鈴木 耕太(沖縄県立芸術大学准教授)

早いもので梅雨明けを経て7月になりました。あと数日で皆さんの楽しみにしている夏休みがやってきます。もうすでに夏休みの計画を立てている人もいるかと思いますが、今年の夏は3年、4年ぶりに「コロナ前」のにぎわいが戻ってきそうです。

多種多様なエイサー

夏休みの風物詩と言えば、夏祭りに海水浴、自由研究などさまざまありますが、「沖縄の夏」といえば「エイサー」をイメージする人も多いと思います。一口にエイサーといっても地域によってその演舞はどれも特徴があります。大太鼓と締め太鼓の勇壮な演舞、パーランクーを使ったしなやかでいて鋭さのある演舞、男女でヤグラを囲んで踊る地域の和合が感じられる手踊りエイサー、素朴でありながら魅力が詰まった女性だけの手踊りエイサーなど多種多様です。

また、最近では創作エイサーも多くの団体があって、それぞれの個性が光っています。伝統的なエイサーの動きを取り入れつつ、空手や他のジャンルの動きと融合させ、沖縄ポップスを中心とした軽快な音楽に乗せて表現します。イベントを盛り上げる重要な芸能ジャンルへと成長しています。

エイサーは芸能の側面が多く語られがちですが、私たちの先祖をお迎える「旧盆」の大切な芸能です。旧盆はウンケー・ナカピ・ウークイと3日間行われますが、あの世(グソー)からやってくる先祖を慰めるために地域の青年を中心にエイサーが行われます。地域によっては「道ジュネー」といって、集落を練り歩いて披



イラスト サイトウカナエ (イラスト沖縄)

問題 旧盆に関するしまくとぅばだよ。意味は分かるかな？

- ウシュマイ
- ンミー
- ガンシナ
- ウソーロー
- グーサン

露する所もあります。

八重山にはアングマ

そして八重山では、エイサーではなく「アングマ」が旧盆に行われます。ウシュマイとンミーの2人がお共をたくさん引き連れ家にやってきて、さまざまな踊りを披露したり、家の人と問答を繰り広げたりします。

左の問題いくつできたかな？

- 五つ分かった! ▶ 「うしゅがなし」 レベル★★★★★
- 四つ分かった! ▶ 「うえーかた」 レベル★★★★
- 三つ分かった! ▶ 「べーちゃん」 レベル★★★
- 二つだけ ▶ 「ざとっめし」 レベル★★
- 一つ(涙) ▶ 「にや」 レベル★

沖縄といっても、地域によって旧盆の迎え方はさまざまあるのです。今年も旧盆がやってきますが、皆さんも自分の地域だけでなく、近隣地域など違う場所で行われる行事について調べてみると、新たな発見や面白いことが見つかるはずです。また、行事には必ず「しまくとぅば」が関わっています。身近な所から行事に関わる「ことば」を見つけてみてはいかがでしょうか。

答え ①おじいさん②おばあさん (以上、八重山のことばだよ) ③盆④わらで作った円形の台座 (お供え物のスイカなどを置えます)

⑤杖 (仏壇にお供えするときにはグーサンウージといって、サトウキビ=ウージ=の両端に赤く細く切った紙を巻いてあるものを使います)

2023年度沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育事業



琉球新報とりゅうPON! は、学校で5部以上同じ紙面を使う場合は、1部132円のところNIE(教育に新聞を) 価格の1部あたり40円で購入できます。

問い合わせ・申し込みは、琉球新報NIE推進室 ☎098(851)5190 nie@ryukyushimpo.co.jp

ていーち! Teach!!



23

先月紹介した旧盆に続き、今月も沖縄の伝統行事を説明します。旧暦8月15日の十五夜には、各地で祭りが催されます。地域によっていろいろな演目があります。しまくとぅばに触れる機会にもなります。ぜひ出かけてみましょう。(第2週掲載)

十五夜行事さまざま

かみや たけふみ
神谷 武史
(沖縄県立芸術大学講師)

沖縄の年中行事の中で十五夜とは、旧暦の8月15日のことで、1年の中で最も美しいとされる「仲秋の名月」(満月)を鑑賞しながら、今期の農作物の収穫に感謝し、来期の豊作を祈願して、神前に芸能やお供え物を奉納する行事です。舞台発表や綱引き、うすでーく(うすでーく)など地域によって多彩です。

獅子舞、棒術、組踊...

今年の旧暦の8月15日は、新暦で9月29日(金)にあたります。舞台発表として行われる行事は、県内各地で旧暦8月10日あたりから「十五夜遊び」「豊年祭」「八月遊び」「村遊び」と称して地域住民が主体となり、獅子舞や棒術、舞踊、お芝居、組踊などのいろいろな芸能が披露されます。近年では、旧暦8月15日には拝みのみ行い、舞台は近い土曜日か日曜日に開催する地域もあります。

当日の昼間は、拝所や御嶽で十五夜拝みが行われ、豊作やムラが安全で平和であるよう祈願します。その後、出演者が衣装を着て地域内にある拝所を巡りながら舞台のある場所を目指して練り歩く道ジュネーが行われます。舞台は、馬場や広場に設置された仮設舞台や公民館の舞台など地域によってさまざまです。

また、道ジュネーの隊列も地域によって特徴があり、旗頭や獅子を先頭に神人と呼ばれる祭祀を司る人や、地域の役人、歌三線を奏でる①地謡衆、踊り衆や棒衆など大勢からなります。ドラ鐘やホラ貝などの鳴り物も加わり、大行列は圧巻です。沿道には家族や友人知人、地域外から多くの観衆で賑わいます。

舞台に到着すると、舞台前で棒術や集団舞踊などが披露され、夕日が沈み満月が東の空から



イラスト・サイトウカナエ (イラスト沖縄)

問題 文章の中に出てきた十五夜の芸能に関する言葉、しまくとぅばで読めるかな?

- ①地謡 ②舞方
- ③長者の大主
- ④扇子舞 ⑤京太郎

左の問題いくつできたかな?

五分かった! ▶「うしゅがなし」レベル★★★★★

四つできたよ! ▶「うえーかた」レベル★★★★★

三つ〜! ▶「べーちん」レベル★★★★

二つだけ ▶「ざとらめし」レベル★★★

一つ ▶「にや」レベル★

上がる頃いよいよ舞台が始まります。演目は、座を清める棒術の舞「②舞方」や長老が子や孫を引き連れて登場する「③長者の大主」で始まります。その後、④扇子舞、口説囃子、獅子舞、狂言、芝居、組踊、古典舞踊や雑踊りなどが華やかに演じられます。また「七福神」「⑤京太郎」や「唐人行列」など大和や中国風の演目を持つ地域もあります。

十五夜の行事は、農業が盛んな時代から継がれてきた行事で、農作物の豊作と人々の心豊かな生活の安定を祈願するとともに、地域住民の親睦や交流を促し、また1年みんなで協力し合える「地域の和」を育みます。今年は3~4年ぶりに開催される十五夜行事に足を運んでみてはいかがでしょうか。

答え ①じゅーてー (じうてー) ②めーかた
③ちようじゃぬうふしゅー ④おーじめー ⑤ちよんだらー

2023年度沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育事業

毎週日曜日発行

新報小中学生新聞



琉球新報とりゅうPON! は、学校で5部以上同じ紙面を使う場合は、1部132円のところNIE(教育に新聞を) 価格の1部あたり40円で購入できます。

問い合わせ・申し込みは、琉球新報NIE推進室
☎098(851)5190 nie@ryukyushimpo.co.jp

ていーち! Teach!!



沖縄の9月のカレンダーでは、9月18日の「しまくとぅばの日」が定着してきました。これをきっかけに、しまくとぅばに触れる機会を増やしてみませんか。(第2週に掲載)

9月18日は「しまくとぅばの日」

高良 則子
(沖縄県立芸術大学教授)

地域で多彩な催し

沖縄県では、各地域の「しまくとぅば」を後世に残し受け継いでもらうことを目的に、2006年に9月18日を「しまくとぅばの日」とする条例が制定されました。しかし、「しまくとぅば県民意識調査」によると、多くの県民が「しまくとぅば」へ親しみを感じる一方で、「しまくとぅば」が使えるという人は年々少なくなっているようです。

そこで、「しまくとぅばの日」にちなんで、この時期には「しまくとぅば」へ関心を持ってもらうために、さまざまなイベントが開催されています。例えば、しまくとぅばを使ったお話大会が開催される地域もあり、幅広い年代の方が発表に参加されているようです。皆さんの地域ではどのようなイベントが開催されているか、調べてみましょう。

学びに役立つサイトも

最近では学校の授業でも調べ物をする際にはインターネットを活用する機会が増えてきていると思いますが、しまくとぅばに触れる機会は、デジタルの世界でも広がりを見せています。そこで、しまくとぅばを学ぶために役に立つお勤めのサイトを紹介します。しまくとぅばを学ぶためには、他の言語を学ぶ時のように、たくさんの単語や文、お話を聞いて使ってみるとよいでしょう。

しまくとぅばの学習ツールの一つに、しまくとぅば普及センターの「使ってみようしまくとぅばナビ」というサイトがあります。「学んでみよう」の中の「学習ツールダウンロード」コーナーでは『しまくとぅば読本』や『しまくとぅば単語帳』、各地の『語ろう使おうしまくと



イラスト・サイトウカナエ (イラスト沖縄)

問題 以下の各地域の言葉で「トシボ」は何と云うかな? 調べてみよう!

◆サイト「使ってみようしまくとぅばナビ」の「学んでみよう」から「学習ツールダウンロード」に入って各地の単語帳(中南部は「単語帳9級」)で調べられるよ。単語帳の後ろにある共通語引きを見てみよう!

- 1・本部町瀬底では?
- 2・沖縄本島中南部では?
- 3・石垣では?
- 4・与那国では?



左の問題できたかな?

全部調べて分かったら

「うしゅがなし」レベル★★★★★

〇〇もチェック!

沖縄県立博物館・美術館

WEBアーカイブ

ウチナー民話のへや



うば』などが紹介されています。また、「使ってみよう」のコーナーには、「しまくとぅば会話帳」があり、各地域のしまくとぅばで簡単な会話を聞いて練習することができます。さらに、楽しみながら単語を覚えることができる「しまくとぅばゲーム」もあるようです。

単語を少しずつ覚えてきたら、次はしまくとぅばでお話を聞いてみてはいかがでしょう。県立博物館・美術館の「WEBアーカイブ ウチナー民話のへや」というサイトでは、各地域

のしまくとぅばを使った昔話や伝説などを聞いたり読んだりすることができます。現在80話の動画が公開されており、沖縄各地で収録された生の語り部のお話を聞くことができます。話者のお話を基にした方言バージョンや共通語バージョンもあるので、聞き比べをするのもよいでしょう。このようなインターネット上の学習ツールを積極的に使って、しまくとぅばに触れる機会を増やしましょう。

2023年度沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育事業

新報小中学生新聞



琉球新報とりゅうPON! は、学校で5部以上同じ紙面を使う場合は、1部132円のところNIE(教育に新聞を) 価格の1部あたり40円で購入できます。

問い合わせ・申し込みは、琉球新報NIE推進室 ☎098(851)5190 nie@ryukyushimpo.co.jp

ていーち! Teach!!



25

グスーヨー「チクザキ」ンディ チチャルトーアイビーガヤァー? (みなさん「菊酒」ということばを聞いたことはありますか?) 沖縄では毎年旧暦9月9日(2023年は10月23日)に「菊酒」という行事を行います。最近では「菊酒」行事を行っていない家庭が増えていると聞いています。そこで今回は「菊酒」という行事についてお話ししたいと思います。(第2週に掲載)

「菊酒」の行事とは

阿嘉修 (沖縄県立芸術大学准教授)

古来、中国では旧暦9月9日(現在の10月中旬)に菊が美しく咲く時期であったので、菊は「仙境に咲く霊薬」として邪気を払い、長寿の効果があると信じられていました。そこで重陽の節句である9月9日に、菊の花びらを浮かべた酒を飲み、長寿を願う風習が生まれ、日本や沖縄にも伝わってきたといわれています。県外では「菊の節句」に菊の花びらを散らした器に冷酒を注いで飲み、無病息災や長寿を願います。また沖縄では特に子どもの健康祈願、家族の健康・長寿を願うそうです。

家族の健康願う

沖縄の「菊酒」は地域や家庭によって異なっていると思いますが、今回は一例として「菊酒」の行事を行っている私の叔母から、やり方を習ってみました。

まず盃に菊の葉を裏返して3枚(葉先を外に3方向)入れ、その盃に並々と泡盛を注ぎます。銘柄は? と尋ねると「シマザキヤレー、ヌーヤティンシムン」(泡盛であれば何でも良い)と答えました。そして、ヒヌカンの前に菊酒、ミジ、ウチャトウーを置き、ヒラウコー(6本が1枚になっていますので2枚と半分で15本)に火をつけウコールに立ててお供えします。

ヒヌカンに向かって「ウートトウ、クトウシ(今年)〇〇年(干支)〇〇〇マリヌ(本人の干支生まれの)、〇〇〇(本人の名前)ヤイピーン。チューヤ、チクザキヤイピーン(今日は菊酒です)。〇〇〇ガ(子どもの名前)イイミチニ フドゥワーチ(良き道に育ち)マタ、ヤーヌチネーン ミーマンティ ウタバミソリー(また家族も見守ってください)」と拝み終わったら、菊酒をウサンデー(お下げ)しま



イラスト サイトウカナエ (イラスト沖縄)

問題 文中の下線を引いたしまくとぅば、それぞれどんな意味?

- ①ヒヌカン ②ミジ ③ウチャトウー ④ヒラウコー ⑤ウコール

左の問題いくつできたかな?

- 五つ分かったよ! 「うしゅがなし」レベル★★★★★ 四つ分かった 「うえーがた」レベル★★★★ 三つ分かった 「べーちゃん」レベル★★★ 二つ分かった 「ざとらぬし」レベル★★ 一つだけ 「にや」レベル★

す。子どもにはミジナリ(菊酒を指の腹に付け、子どもの額に付ける事)をした後、大人は菊酒を飲むそうです(飲まない場合もあります)。

「しまくとぅば」で拝みをした方が良いのか? と尋ねると「ナマヌジデーヤ ヤマトウグチヤティン、ヌーヤティン、トウーイサ。ナレー、シマクトウバヤレージョートーヤシガヤ(今の時代は日本語でも何語でも届くよ。なる

べく、しまくとぅばだと良いけどね)」とのこと。

グスーヨー、シマクトウバン ウチナーヌ行事ン ネーランナシェー ナイピランクトウ(皆さん、しまくとぅばも、沖縄の行事も無くしてはいけません)これを機会に「菊酒」に挑戦してはいかがでしょう? 皆さんは菊酒を飲むのではなく、お供えして家族で健康長寿を祈願し、伝統文化を体験してくださいね。

答え ①火の神 ②水 ③お茶 ④(沖縄の平たい)線香 ⑤ウコール(香炉)

2023年度沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育事業



新報小中学生新聞

琉球新報とりゅうPON! は、学校で5部以上同じ紙面を使う場合は、1部132円のところNIE(教育に新聞を) 価格の1部あたり40円で購入できます。

問い合わせ・申し込みは、琉球新報NIE推進室 ☎098(851)5190 nie@ryukyushimpo.co.jp

ていーち! Teach!!



26

皆さんは「チム」がつく沖縄の言葉をよく耳にすることがあると思います。「チム」は「肝」「心臓」の意味があり、気持ちを表す言葉に使われています。今回はその言葉にまつわる話です。

(第2週に掲載)

祖先から受け継ぐ「チムグクル」

比嘉 いずみ

(沖縄県立芸術大学教授)

沖縄の言葉には、「チムドンドン」「チムグリサン」「チムジュラサン」「チムムチムン」「チムガカイ」など、「チム(肝)」のつく言葉がたくさんあります。その中で、沖縄だけでなく海外の県系人にも受け継がれて、日常的に多く使われているのが、「チムグクル=まごころ」ではないでしょうか。

その言葉のもつエネルギーを感じたエピソードを、二つ紹介しましょう。

①今年の8月8日に、ハワイのマウイ島で山火が発生し、被害が広範囲に拡大して、たくさんの方が亡くなり、住む家や活動の場所が笑われました。その方々を支援しようと、ハワイ在住の「ハワイ沖縄連合会」が「ちむぐるプロジェクト」を立ち上げ、それを受けて沖縄では「沖縄ハワイ協会」が、災害支援のための専用口座を開設しました。

沖縄からマウイ島へ「チムグクルを届けよう!」との呼びかけに、県内各地の学校や企業・団体・個人から驚くほどの寄付金が寄せられています。

沖縄の人々の思いは、「戦後、移民でハワイに渡った県系人から、さまざまな物資が送られてきた。特に、その方々からの寄付金で送られてきた豚のおかげで、今私たちは生きることができ、命が繋がっている。そのご恩に対し、今こそハワイの方々に、チムグクルで恩返しをしよう」として、あたたかい思いが届けられているのです。

②ブラジルから県費留学生として沖縄県立芸術大学にきた学生が、授業初日の自己紹介で、「沖縄にチムグクルを学びに来ました」とあいさつをしました。

彼女は祖母のすすめで幼少より琉球舞踊を習いはじめ、祖母の口癖だった「チムグクル」の意味を深く理解したい、という思いで留学を決



イラスト サイトウカナエ (イラスト沖縄)

問題 文章の最初に出てくる「チム」がつく言葉の意味を、a～eの中からそれぞれ選びましょう!

①チムドンドン
②チムグリサン
③チムジュラサン
④チムムチムン
⑤チムガカイ

a. 温かい
b. 情け深い
c. 気にかかる
d. 心が躍る
e. かわいそう

左の問題いくつできたかな?

五つ ▶ 「うしゅがなし」 レベル ★★★★★

三つ ▶ 「べーちゃん」 レベル ★★★

二つ ▶ 「さどめし」 レベル ★★

一つだけ ▶ 「にや」 レベル ★

意したとのことでした。

そして、1年間の留学期間を終えた後、研修発表会のスピーチで「沖縄での生活を通して、初めて出会う親戚とともに、シーミー(清明祭)やシチグワチ(旧盆)の伝統行事で、祖先を敬う心を学ぶことができました。また友人たちが気軽に買い物やドライブに誘ってくれて、たくさんの方々のやさしさと思いやりに触れることができました。沖縄に来て、祖母が言っていたチムグクルを見つめることができました!」と涙ながらに話していました。

チムグクルという言葉を知り、ブラジ

ルで生まれ育った3世の孫娘が祖母の故郷に渡り、さまざまな体験を通して言葉の真意を理解できたようです。

シマクトゥパには、豊かな想像力と工夫がなされた表現が数多くあります。改めて言葉の持つエネルギーとそれを受け継ぐことの大切さを実感します。

平和で豊かな社会を目指していくために、先人から受け継いだ「チムグクル」の精神を世界に伝え、シマクトゥパを大切にしていきたいと思えます。

答え: ①=d、②=e、③=b、④=a、⑤=c

2023年度沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育事業

毎週日曜日発行

新報小中学生新聞



琉球新報とりゅうPON! は、学校で5部以上同じ紙面を使う場合は、1部132円のところNIE(教育に新聞を) 価格の1部あたり40円で購入できます。

問い合わせ・申し込みは、琉球新報NIE推進室 ☎098(851)5190 nie@ryukyushimpo.co.jp

てーち! Teach!!



27

以前紹介した「しまくとぅば検定」。今年ももうすぐ行われます。検定ではどのような問題が出るのでしょうか。過去の問題を見てみましょう。(第2週に掲載)

検定の問題、どんな内容?

西岡 敏 (沖縄国際大学教授)

師走を迎えて、今年も「しまくとぅば検定」の季節になりました。ぐすーよー、しこーいむこーい そーみしゅーびーがやー? (皆さん、準備いろいろとなさっていますか?)

本来、語学の検定試験は、「聞く(リスニング)」「話す(スピーキング)」「読む(リーディング)」「書く(ライティング)」の四つの言語技能を測り、語学力の向上に役立てていくことを目的としています。英検なども「英語4技能」として「聞く」「話す」「読む」「書く」の言語技能が測れると言われてい

ます。「しまくとぅば検定」では、「聞く」「読む」の試験は2018年の検定が始まった当時からあります。しかし、「書く」の試験が始まったのは2021年になってから、「話す」を測る試験に至っては実はこれまで行われていません。

「書く」の試験が遅れたのは、しまくとぅばの表記法が決まっていなかったことも要因の一つかもしれません。「話す」の試験は、しまくとぅばのスピーチコンテストが検定試験に代わるものとして考えられているのかもしれませんが。「しまくとぅば検定」でも「しまくとぅば4技能」がいずれ測れるようになってほしいですよね。

また、「しまくとぅば検定」では、語学力の向上に加えて、検定を受けることを通して琉球文化への理解・関心を深めることも重要なねらいになっています。「読む」の試験として、長文読解が「しまくとぅば検定」(5級)でも出題されていますが、2021年は「ハーリー(爬龍はりゅう船競漕)」が長文読解のテーマの一つでした。その冒頭部分を紹介しましょう。

「うちなーぐゆめぬ 5月ぬ 4日ー、ハー



イラスト サイトウカナエ (イラスト沖縄)

リー うくなゆる しちび など ーいびーん。うぬ ふいーに んかしぬ なーふあんなとううてー、とうまい、 なーふあ、うりから、くにんだ(ら)ぬ みーちぬ むらぬ わかむんぬチャーが ハーリーぶに かたみていあちまやーに、うみんかい うかびていぬいくまびたん。」(旧暦の5月4日は、ハーリーを行う節目の日です。その日に昔の那覇港では、泊、那覇、そして、久米村の三つの村の若者たちがハーリー船を担いで集まって、海に浮かべて乗り込みました。令和3年度; 読んで答える問題2)

実際の検定試験では、もちろん日本語訳は付いていません。それでは、今回の問題です。「玉城朝薫」をテーマにした2022年の問題について皆さん一緒に考えてみましょう。

「うちなーううてい 『くみうどうい』ん でい ゆばりーる じーぬー ちゅくてい、し

2022年度の問題文、どんな意味が分かるかな? 分かった人は うしゅがなし レベル ★★★★★

きぬんかい うとう うっちょーしゅー、玉城朝薫(1684~1734)でい つゆる っちゅやいびーん。 ちょうくんぬ からな(唐名)や、向受祐んでい つやびたん。」(令和4年度; 読んで答える問題2)

皆さんどんな意味が分かりましたか? 今年の「しまくとぅば検定」の申し込みは終了しましたが、興味をもった方は来年为目标に挑戦してみたいかがでしょうか。

答え: 沖縄で「組踊」と呼ばれる芸能を作って、世間でよく名を知られているのは、玉城朝薫という人です。朝薫の中国名は向受祐と言いました。

2023年度沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育事業

毎週口語講座

新報小中学生新聞



琉球新報とりゅうPON! は、学校で5部以上同じ紙面を使う場合は、1部132円のところNIE(教育に新聞を) 価格の1部あたり40円で購入できます。

問い合わせ・申し込みは、琉球新報NIE推進室 ☎098(851)5190 nie@ryukyushimpo.co.jp

てーち! Teach!!



28

皆さんお餅は好きですか? 今回は沖縄のお餅に関する行事の話をしますよ。今年もしまくとぅばに親しんでいきましょう! (第2週に掲載)

健やかな成長願うムーチー

嘉数 道彦(沖縄県立芸術大学准教授)

2024年が始まりました! 皆さん、お正月はたくさんごちそうを食べましたか? さて、今回は沖縄本島地域ならではの年中行事、「ムーチー」についてご紹介します。

毎年旧暦の12月8日がムーチーの日にあたります。今年は今年18日(木曜日)がムーチーの日になります。ちょうど、沖縄が最も寒くなるといわれる時期で、その寒さは「ムーチーピーサ」と呼ばれています。

年齢と同じ数つるす

子どもたちの健康を祈って作られるムーチーは、もち粉に水と砂糖を加えながら、よくこねて、細長く平たく形を整え、①サンニンの葉で包み、蒸して作られます。出来上がったムーチーは、お仏壇や②ヒヌカンにお供えし、かつては子どもの年の数だけひもでくくり、すだれ状に梁からつるす風景が見られました。そして邪気払いのために、ムーチーを蒸した汁を玄関や屋敷の隅にまいたりもしていたそうです。また、赤ちゃんが誕生して初めてムーチーの日を迎える家庭では、「初ムーチー」といって、親類やご近所さんへ配ったりする風習も沖縄ならではのですね。皆さんはどのようにムーチー行事を過ごしていますか?

③カーサで巻くことから「カーサムーチー」、神様の宿る神聖な木といわれるクバの葉で餅を包み、力持ちになるようお願いを込めた「力(ちから)ムーチー」など、呼び方もさまざまです。スタンダードな白いムーチーや、黒砂糖を加えたサタームーチーに加え、最近では、紅芋や④ウッチン、⑤チンクワなどを使った色とりどりのムーチーを楽しむこともできますね。

答え①月桃 ②火の神 ③葉 ④ウコン ⑤カボチャ



イラスト サイトウカナエ (イラスト沖縄)

問題

文中の①～⑤の番号がついたしまくとぅばの意味、分かるかな?

いくつできたかな?



五つ分かった! ▶「うしゅがなし」レベル★★★★★

四つできたよ! ▶「うーかた」レベル★★★★

三つ〜! ▶「べーちゃん」レベル★★★

二つだけ ▶「さどおぬし」レベル★★

一つ ▶「にや」レベル★

そんなおいしいムーチーですが、漢字で書くと「鬼餅」。「ウニムーチー」とも呼ばれるその理由は、ムーチーの由来につながります。県内各地にさまざまな言い伝えがありますが、特に有名な伝説をひとつ今日はご紹介しましょう。

首里金城町に仲のよい兄と妹が暮らしていましたが、ある日、お兄さんが鬼になってしまいました。村人たちに悪さははたらくお兄さんをどうにかしなきゃと苦渋の選択を迫られた妹は、鬼が好む餅を作り、その中に鉄を入れて食

べさせました。なかなか、かみ切れない餅に苦戦している鬼を、崖から突き落とし退治したという物語。ちょっとかわいそうなお話ですが、なんと約800年前からある由来といわれています。

いつの時代も、子どもたちのすこやかな成長を願うお父さん、お母さんの優しい思いが、おいしいムーチーに込められているのです。今年もムーチーを食べて、一年間元気いっぱい、笑顔いっぱいの毎日をご過ごせますように。

2023年度沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育事業

琉球新報小中学生新聞

毎週日曜公開



琉球新報とりゅうPON!は、学校で5部以上同じ紙面を使う場合は、1部150円のところNIE(教育に新聞を)価格の1部あたり40円で購入できます。

問い合わせ・申し込みは、琉球新報社地域読者局 ☎098(851)5190 nie@ryukyushimpo.co.jp

ていーち! Teach!!



29

沖縄の伝統行事は、旧暦に沿って行われるものが多いですね。今月は「ジュールクニチ」という行事があります。どのようなものなのでしょうか。(第2週掲載)

旧暦とジュールクニチ

仲原 穰

(沖縄県立芸術大学非常勤講師)

昨日は正月でしたね。「あれ、もう2月だけどな？」と疑問に感じた人もいるかもしれません。確かに太陽暦(グレゴリオ暦)では、1カ月前に正月は過ぎてしまいました。ただ、沖縄では「旧暦」と呼ばれる太陰暦を伝統的に使用していました。太陽暦がティーダ(太陽)の動きを基にしているのに対し、太陰暦は①チチの満ち欠けを基にしています。新月(地球からは月が見えない状態)が②チータチで、1日ごとに月が姿を現し始め、15日で満月になります。この満月の日をジュールクニチ(十五日)と呼ぶのはそのためです。満月から徐々に月が欠け始め、新月に戻るのです。満月や新月には大潮(引き潮)になることもあり、沖縄では現在でも漁業に関わる仕事をしている人々が多く住む地域やその周辺の集落を中心に太陰暦が使用されています(糸満市、八重瀬町など)。通常の暦(太陽暦)と旧暦(太陰暦)の正月を呼び分けるため、旧暦の正月を「旧正月」と表現していることが多いですが、ウチナーグチでは、③ソーグウチという本来、旧暦の正月を指します。

皆さんはジュールクニチという風習を知っていますか? 旧暦の1月16日(2024年の太陽暦では2月25日)のことです。毎月16日がありますが、ジュールクニチというのは旧暦1月16日だけで、「グソヌ ソーグウチ(あの世の正月)」ということもあります。この日は墓参りをする日ですが、清明祭に墓参りをする習慣のある地域(沖縄本島中南部や北部の一部)では、グソヌソーグウチと呼ばれるジュールクニチは行わないことが多いです。そのため、ジュールクニチがあまり知られていない地域もあります。シーミーやウシーミーと呼ばれる清明祭と同じように、家族・親戚が集まり、④ジュールクヤ餅、菓子などの供え物を手に墓参りをする日



イラスト サイトウカナエ (イラスト沖縄)

問題

文中の①～⑤の番号がついたしまくとぅばの意味、分かるかな?

いくつできたかな?

- 五つ分かった! ▶「うしゅがなし」レベル★★★★★
- 四つできたよ! ▶「うーかた」レベル★★★★
- 三つ~! ▶「ペーちゃん」レベル★★★
- 二つだけ ▶「ざとぅぬし」レベル★★
- 一つ ▶「にや」レベル★

なのです。久米島、宮古、八重山や沖縄本島北部の一部で行われている風習です。ジュールクニチに合わせて地元へ戻り、家族や親戚と顔を合わせることが多いです。地元へ里帰りできないとき、那覇市の三重城で供え物を広げ、ウトウシ(遙拝=遠くから拝むこと)をする人もいます。

ジュールクニチでは、墓前で重箱(御三味)、餅、果物、菓子などの供え物、線香、ウチカピ(紙銭)、酒、茶などを供え、日頃見守ってくれていることへの感謝を述べるとともに、家族

・親族の近況を報告します。祖先に「ウサンデー サビラ(供え物をいただきます)」と伝えた後、⑤ウサンデーをみんなで食べます(これを専門用語では「直会」といいます)。ご先祖さまから分けていただいたごちそうと一緒に食することにより、祖先から子孫へと紡がれてきた絆を意識する人もいれば、みんなが集まってにぎやかに語らう場だと感じる人もいます。伝統的な重箱料理ではなく、パーベキューなどの現代的な料理を食べている家庭も出てきているそうです。

の早み斗斗多崎ヲ嶺⑤ 嶺重④ 自丑③ 日一② 自①ヲ景

2023年度沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育事業



琉球新報小中学生新聞

琉球新報とりゅうPON!は、学校で5部以上同じ紙面を使う場合は、1部150円のところNIE(教育に新聞を)価格の1部あたり40円で購入できます。

問い合わせ・申し込みは、琉球新報社地域読者局 ☎098(851)5190 nie@ryukyushimpo.co.jp

8 令和5年度しまくとぅば実践授業録画日一覧

令和5年度 しまくとぅば実践教育 授業録画日一覧(括弧内の数字は回数)

【前期】

授業実施回数 舞踊実技Ⅰ(比嘉)8回、舞踊創作演習Ⅰ(比嘉)15回(補講1回)
地謡実技Ⅲ(新垣)4回

令和5年

4月12日 舞踊創作演習Ⅰ／比嘉(1)
4月19日 舞踊創作演習Ⅰ／比嘉(2)
4月24日 舞踊実技／比嘉(1)
4月26日 舞踊創作演習Ⅰ／比嘉(3)
5月10日 舞踊創作演習Ⅰ／比嘉(4)
5月17日 舞踊創作演習Ⅰ／比嘉(5)
5月22日 舞踊実技Ⅰ／比嘉(2)
5月24日 舞踊創作演習Ⅰ／比嘉(6)
5月31日 舞踊創作演習Ⅰ／比嘉(7)
6月5日 舞踊実技Ⅰ／比嘉(3)
6月7日 舞踊創作演習Ⅰ／比嘉(8)
6月12日 舞踊実技Ⅰ／比嘉(4)
6月14日 舞踊創作演習Ⅰ／比嘉(9)
6月26日 舞踊実技Ⅰ／比嘉(5)
6月28日 舞踊創作演習Ⅰ／比嘉(10)・地謡実技Ⅲ／新垣(1)
7月3日 舞踊実技Ⅰ／比嘉(6)
7月5日 舞踊創作演習Ⅰ／比嘉(11)・地謡実技Ⅲ／新垣(2)
7月12日 舞踊創作演習Ⅰ／比嘉(12)
7月13日 舞踊創作演習Ⅰ／比嘉(13)補講
7月17日 舞踊実技Ⅰ／比嘉(7)
7月19日 舞踊創作演習Ⅰ／比嘉(14)・地謡実技Ⅲ／新垣(3)
7月20日 舞踊創作演習Ⅰ／比嘉(15)
7月24日 舞踊実技Ⅰ／比嘉(8)
7月26日 舞踊創作演習Ⅰ／比嘉(補講1・前期まとめ)・地謡実技Ⅲ／新垣(4)

【後期】

授業実施回数 舞踊実技Ⅳ(比嘉)8回、組踊実技Ⅳ(嘉数)1回
舞踊実技Ⅵ(嘉数)2回、琉球舞踊組踊研究Ⅰ(嘉数)2回

令和5年

10月2日 舞踊実技Ⅳ／比嘉(1)
10月16日 舞踊実技Ⅳ／比嘉(2)
11月6日 舞踊実技Ⅳ／比嘉(3)
11月27日 舞踊実技Ⅳ／比嘉(4)
12月11日 舞踊実技Ⅳ／比嘉(5)
12月18日 舞踊実技Ⅳ／比嘉(6)

令和6年

1月15日 舞踊実技Ⅳ／比嘉(7)・舞踊実技Ⅵ／嘉数(1)
1月22日 舞踊実技Ⅳ／比嘉(8)・舞踊実技Ⅵ／嘉数(2)
1月31日 組踊実技Ⅳ／嘉数(1)

2月9日 琉球舞踊組踊研究Ⅰ／嘉数(1)

2月16日 琉球舞踊組踊研究Ⅰ／嘉数(2)

令和5年度 しまくとぅば実践教育プログラム開発事業
事業報告書

令和6年3月31日

編 集 鈴木 耕太・喜屋武 愛香・金城 安恵

発 行 沖縄県立芸術大学芸術文化研究所

〒903-0815 沖縄県那覇市首里金城町 3 - 6

電話098-882-5040

事業委託者 琉球新報社 担当 宮城、池宮